

日本の滋賀で2年間活動してきた私たち9期生の思い

miraijyuku

9

term life

YES,  
WE  
CAN!

おうみ未来塾  
成果発表会・第9期生卒塾式



nukunuku

遊人里グループ

近江むかし発見隊

じゃくなげ学校未来塾グループ



塾生集合写真&卒塾を迎えて .....	p. 1
塾長・運営委員からのメッセージ .....	p. 2
2年間の歩み .....	p. 5
4グループ活動紹介 .....	p.11
nukunuku .....	p.12
遊里人グループ .....	p.22
近江むかし発見隊 .....	p.32
しゃくなげ学校未来塾グループ .....	p.42
25の仲間 .....	p.53
スタッフからのメッセージ .....	p.79
編集後記 .....	p.83



## 卒塾を迎えて

今年の春は早い、桜の開花が一週間早いと報道されていますが、それよりも早く、私の地元では満開の桜が数本、遠くから私たちの卒塾を祝ってくれているようです。

本日は、このような盛大な卒塾式を挙行頂きましたことに、九期生を代表して深く感謝申し上げます。

私たちは、平成十九年六月におうみ未来塾第九期生として、それぞれの目的、夢、目標を持って二八名が入塾しました。残念ながら仕事や体調等の理由で三名が断念されましたが、本日、二年間の学びと実践を積み二五名が卒塾することができました。

湖国各地から集まった年齢、経歴、趣味も違う二五名、二五色の個性ある仲間と共に一年目の全員研修、勉強会を受講し、地域活動について学びながら仲間の繋がりを図りました。二年目はグループ活動を主体とし、到達目標に向かっての実践活動を行い、地域住民や地域各種団体との調整を繰り返し、企画運営、活動することで目標を達成したグループ、

修正しながら継続するグループ、各四グループの活動成果、そしてこれからの展望を含め、それぞれの思いを「第九期生成果発表」として発表し、アドバイスと講評をいただくことができました。

この、すばらしい仲間と出会えたことを財産とし、一緒に研修、実践活動できたことを誇りに思い、本日から、二百余名の卒塾生の一人として、各自の理想とする地域プロデューサーに向かって、無理せず自分にあったペースで地域活動を継続していくことを誓います。

最後になりましたが、地域プロデューサーへの道標となり指導して頂いた日高塾長をはじめ、運営委員の皆さま、そして常に九期生の目線から道標となりアドバイスして頂いた事務局の皆さま、ありがとうございました。お世話になりました皆さまのご健康と益々のご発展をお祈りし、お礼の言葉とさせていただきます。

平成二十一年三月七日  
おうみ未来塾第九期生一同  
(代表 近江おかし発見隊 森 俊一)



おうみ未来塾塾長  
日高 敏隆

(動物行動学者・滋賀県立大学初代学長)

## 未来可能性を拓こう

9期生のみなさん、卒業おめでとう！

この2年間の経験をこれからの活動に活かしていきましょう。そして、その活動の中で、いつも「未来可能性」を考えてほしいと思います。これからは、ぼくの好きな言葉「未来可能性」が不可欠だと思います。未来をどうしたら可能にできるのかということをつねに考えていかないと、このままほっておいては、たいした未来にならないと思っています。

世界を見わたすと、効率を求めて開発し、未来の可能性がないようなことになっている事がたくさんあります。昔、滋賀の水田では、ため池にためておいた水を上の水田に入れて田植えをし、次に下の水田に流し、順番に水を利用して、最後に内湖で泥を沈殿させて琵琶湖へ流していた。いい仕組みだったが、時間がかかった。それが、兼業農家が増えて効率をあげるために、それぞれの水田に琵琶湖からポンプで水を入れ、それぞれの水田が琵琶湖へ水を流すようになった。内湖も埋め立ててしまえと、田んぼにってしまった。米の生産は良くなったが、琵琶湖は水田からの泥で汚れてしまった。これでは未来の可能性はない。

地域で活動をするときも、何がどうなって、どこにつながって、未来につながるのかということもいつも考えてほしい。自分たちにとって、元気の出そうな未来にしていくために、活動してほしい。

元気な未来を拓けるよう、これからの活動を始めていきましょう。



おうみ未来塾運営委員長  
北村 裕明

(滋賀大学教授)

## 市民性と事業性

地域プロデューサーが地域で事業を起こす場合、市民性と事業性は、両者ともに欠くことのできない重要な要素です。

市民性とは、公共サービスの単なる消費者として振る舞うのではなく、地域の共同事務を地域の様々な人々や組織と連携しながら創り出す担い手として行動することです。地域の問題を発見し、解決の政策を考え、事業として実施するには、こうした市民性の要素は必要不可欠です。

事業性とは、必要とされる地域の共同事務が継続的に実施される仕組みを創り出すことです。その事業の必要性を理解してもらい、事業を担う人の輪を広げ、財源を確保し、制度化の努力をし、必要な専門性が事業に反映されるようにし、絶えず評価を加えながら事業の革新が行われてゆくようにすることです。

地域プロデューサーが育つ塾として、「おうみ未来塾」は、地域の問題をどのように発見し、それを解決するための政策を考え、事業を立ち上げるかを、地域に入り地域の人たちとともに考えるという手法に力点を置きながら運営して参りました。それは市民性に基づいて事業を起こすことに力点を置いた運営であったともいえます。グループ活動のために助成金を確保したり、既存の活動の新たな展開を目指すというような事業の継続性に配慮した活動も行われてきましたが、それほど多くはありませんでした。

地域プロデューサーとしての皆様に求められることは、市民性を持ちながら、事業をどのように立ち上げ、継続し、革新してゆくかです。とりわけ事業の継続性に配慮した活動が求められることになるでしょう。人の輪を広げ、事業の魅力を高め、財源等の継続のための社会的な制度を整備する活動に取り組むことが求められることになるのです。



おうみ未来塾運営委員  
岡崎 昌之

(法政大学教授)



おうみ未来塾運営委員  
岸田 眞代

(NPO 法人パートナーシップ・サポートセンター代表理事)

## 「多様性と統合」

おうみ未来塾第9期生のみなさん、2年間に渡ってご苦労様でした。未来塾での活動を通じて、これまでと異なった貴重な経験を積まれたことと思います。新しい人との出会い、初めての地域との遭遇、突飛な考え方の衝撃等、刺激的な時間だったのではないのでしょうか。しかしこの刺激と異常体験が、これからの地域プロデューサーとしての役割や立場に大きく効いてくるでしょう。

地域は様々な側面を持っています。多様な勢力が存在し、多様なベクトルが働きます。市役所と商工会議所が対立したり、農協と森林組合の利害が相反したり、地区ごとの競争や世代間の乖離等々、多様で複雑なのです。それは地域に長い歴史や種々の変遷があったからでしょう。それらを背景として人びとは多様な思いを持って地域で生活しています。

地域プロデューサーは大変です。こうした複雑怪奇な地域の内情を、切り開いて秩序立て、しかも関連する組織やグループに分け隔てなく説明、説得し、将来を目指して一つの方向に統合することが問われているのです。

マイルス・デイヴィスのカインド・オブ・ブルーを聞きながら、この原稿を書いています。カッコいいでしょう(笑)。デイヴィスのトランペット、コルトレーンのテナーサックス、ビル・エヴァンスのピアノ、色んな音色が流れてきます。時には単独で、また重なり合って。追いかけてながら、立ち止まりながら。

この最上のジャズは、異質で多様な最高のプレーヤーたちが、互いを尊重し、活かし合いながら、しかもデイヴィスの作り上げる確固としたトーンのかなかに、上手く折り合いを付けていることで、誕生したのです。

地域の現場に目を光らせ、組織の特徴、人材の個性、地区の資源などを十分に引き出し、それらを将来に向けてまとまりを付けていくことが、地域プロデューサーの重要な任務でしょう。難しいことですが、ジャズでも聞きながら、ゆっくり構想してみてください。

## 第9期生卒塾おめでとうございます。

最後の発表は本当に涙が止まりませんでした。感動と感激の締めくくりになりました。心から「おめでとうございます」と「ありがとう」を申し上げたいと思います。おうみ未来塾の運営委員として関わってこられたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

私たちは何のために活動しているのか、あるいはみなさんは何のために「おうみ未来塾」に入塾したのか、と問えば、きっと、それぞれの思いや志が、それぞれ違った言葉で返ってくるに違いありません。

でも、おそらく誰もが共通しているのは、そうした活動や行動を通して、自分自身の人生を豊かにし、そして関わった「人」や「地域」が何かしら変化している、よくなっている、と実感できるとき、うれしい気持ち、たのしい気持ちになれるということではないのでしょうか。

さらに、そのなかではっきりとその人なりの成長を感じとれたとき、人の心を動かし、第三者をも喜びに震えさせるものだということを、9期生の活動と発表を通じて改めて学ぶことができました。

2年間の活動は、もしかしたらこれからの生き方を変えてしまったかもしれません。あるいは、2年間の活動を通して自分の新たな方向が見えてきたかもしれません。それはきっと「おうみ未来塾」に真剣に取り組んだ証なのでしょう。

逆に、迷いが出てきたり、立ち止まったりしている人もいるかもしれません。それはそれで、「成長」へのステップと考えれば、すべてプラスです。

「おうみ未来塾」の2年間で、さらにつづく長い道のりとみなさんにとって、「地域プロデューサー」の誕生にふさわしい時間であったことを信じて、またその時間を共有できたことに改めて心から感謝したいと思います。



おうみ未来塾運営委員  
澤 孝彦

(おうみ未来塾第1期生)



おうみ未来塾運営委員  
藤井 絢子

(滋賀県環境生活協同組合 理事長)

## 地域プロデューサーの本質を求めて

おうみ未来塾第9期生のみなさん、卒塾おめでとうございます。

二年間の未来塾はいかがでしたでしょうか。新しい自分との出会い、またこれまで知らなかった人との出会いなど、いろんな宝物が見つかったのではないかと思います。

このたびの、みなさんの成果発表を見せていただき、本当に感激しました。4つのグループとも、限られた時間と出来る条件のもとで、がんばってこられた様子が伝わり、またその成果も素晴らしいものでとてもよかったと思っています。また、どのグループも「地域に入る」ということを意識して活動されたことが、とても素晴らしく思いました。やはり、地域で徹底してやってこそ、地域プロデューサーとは何かということがわかってくるのだと思いますし、その本質も地域に徹底して入ってこそ、わかってくるものと思います。

卒塾後もグループ活動を続けられ、もうすでに次の日程が決まっているグループもあるようで、ますますこれからの活動の成果を楽しみにしています。

おうみ未来塾のよさは、今まで知らなかった地域で新しいネットワークが生まれることだと思っています。「近江むかし発見隊」や「しゃくなげ学校未来塾」は、何度も何度も地域へ足を運ばれたようですね。そのプロセスから地域の人との強い信頼関係も生まれたのだと思います。「遊人里(ゆとり)」グループも凄いと思いました。ほぼ完璧な成果が出たと思います。この成果をぜひ新しい地域で活かしてほしいと思っています。「nukunuku」グループの皆さんは、それぞれの状況から全員そろって活動できなくて残念でしたが、この悔しさをバネにして、ぜひ継続してがんばっていただきたいと思っています。

みなさんのご活躍を心からお祈りしています。

## 9期生のみなさんへ

9期生卒塾おめでとうございます。今回は成果発表会に参加できず、皆さまの生の息吹きにふれることが出来なかったこと、かえすがえすも心残りです。発表会の冊子の文字から、映像から皆さまの表情、声を聞きとってみました。

“地域”に入り、“地域”の方々との出会いの重なりの中で、“地域”からシード(seeds)を発見していくプロセスは、本当にワクワクするものです。9期生各々のチームとも、よくぞここまで！と正直思います。とまどいの時間から逃げなかった。中間発表以降、随分チームの中で議論と実践を重ね、成長していく様が素晴らしく、まるで別物に育っていました。いよいよ“地域”をプロデュースする入り口に立ちました。

私自身が愛東地域に入り「菜の花プロジェクト」のタネを蒔いてから、かれこれ20年近くになります。年毎に、今なお驚くほど地域の宝に出会います。地域の人は、地域にずっと暮らしているから、その宝を宝と気づかない事の発見続きです。風土(地域の人—土の人—、よそ者—風の人—)とは、よく言ったものです。土の人と外からの風の人が協働で織りなすものなのだと、ここまでやって来て身体でも感じられるようになってきました。

講評や講義の中で塾生の皆さんにお伝えしてきたように、「土の人」と「風の人」だけでは不足です。その両者をつなぐ「水の人」、更にひっぱりついでいく「光の人」の存在が地域の輝きにつながると思います。

さて、私事ですが、昨秋、初孫が出来たことで、この幼子の一生に想像を馳せる中、“地域”のありようが、ますます気になりはじめています。安心・安全を食べる、健やかに育つ多様な空間がある、生命のつながりと地域に根ざした伝統、文化にふれる、人間は多くの生きものと共にある事に気づき大好きになる、等々。

“地域”には、そのすべてが在ることを発見し、つむぎ出す試みは、未来塾の歴史の中で塾生たちが挑戦してきた事だと今更ながら深い感動を覚えます。

9期生の皆さんも、先輩塾生とも地域交流を重ね、地域力アップに更にさらに貢献してほしいと願っています。何よりも楽しんで！

2

年間の歩み

YES,  
WE  
CAN,  
miraijyuku

# おうみ未来塾9期生の活動の記録

2007年度

## (1) 講義の経過 (所属は当時のもの)

- 入塾式 ◇日時：2007年6月10日(日) 14:00~17:45 ◇場所：ピアザ淡海  
◇内容：開講記念講義「人と地域の未来可能性を拓く」  
講師：日高敏隆 塾長



- 第1講 ◇日時：2007年7月8日(日)  
10:00~17:30

- ◇場所：マルチメディアセンター  
◇内容：講義「コミュニケーション」と  
フィールドワーク  
講師：岸田真代さん(おうみ未来塾運営委員)

講義「地域プロデューサーとICT」

講師：藤田知丈さん

(マルチメディアセンター所長・おうみ未来塾7期生)

フィールドワーク「はちまん市民活動まちあるき」

ガイド：NPO法人はちまんまちづくり間の会

訪問先 ・NPO法人しみんふくし滋賀/野間邸前

・(社福)滋賀県社会福祉事業団/ボーダーレスアートミュージアムNO-MA

・NPO法人ヴォーリス建築保存再生運動一粒の会/旧八幡郵便局

・八幡堀を守る会(西村恵美子さん)/酒游館

・NPO法人エナジーフィールド/BIWAKOピエンナーレ2007開催地

・八幡堀周辺散策

・NPO法人秀次倶楽部(高木茂子さん)/ほのぼの館

・NPO法人はちまんまちづくり間の会/まち家サロン「間」



- 第2講 ◇日時：2007年7月28日(土)  
10:30~17:00

◇場所：滋賀大学大津サテライトプラザ

◇内容：講義：「地域プロデューサーの時代」

講師：北村裕明さん(おうみ未来塾運営委員長)

訪問先：しが文化芸術体験サポートセンター

事例に学ぶ

「しが文化芸術体験サポートセンター設立につながった事例を通して」

講師：津屋結唱子さん(子どもの美術教育をサポートする会代表)

門脇 宏さん(滋賀県県民文化生活部県民文化課長)

YES  
WE  
CAN!  
miraijyuku

■第3講 ◇日時：2007年8月18日(土)～19日(日)

◇場所：高島市

◇内容：たかしま合宿

訪問先：・マキノ町在原地区 福井朝登さん  
(古民家再生建築士)  
・里山パン工房(道の駅マキノ追坂峠)



「高島のまちづくり人と語る」

全体進行：澤 孝彦さん(おうみ未来塾運営委員)

ゲスト：平松成美さん

(NPO法人絵本による街づくりの会代表)

谷口きよみさん(里山パン工房代表)

山本浩さん、藤原久代さん

(マキノまちづくりネットワークセンター)

谷口良一さん(マキノ自然観察倶楽部代表)

「夜の雑木林と星空の観察会」

ガイド：谷口良一さん(マキノ自然観察倶楽部代表)

現地訪問：朽木新本陣「日曜朝市」

「朽木日曜朝市の取り組み」

講師：澤田龍治さん(高島地域観光振興協議会)

ワークショップ「地域で何かをするうえで大事なこと」

■第4講 ◇日時：9月16日(日) 10:00～16:00

◇場所：あいとうエコプラザ菜の花館

◇内容：「多様な主体のネットワークで  
地域や社会を変えるということ」

講師：藤井絢子さん(おうみ未来塾運営委員)

活動体験「里山保全～間伐と腐葉土採集」

(東近江市市ヶ原町の里山)



講義：「里山の生物の現状と環境・私たちの暮らし」

講師：野間直彦さん

(滋賀県立大学講師、おうみ木質バイオマス利用研究会)

■第5講 ◇日時：10月21日(日) 13:00～16:30

◇場所：彦根市

◇内容：講義「学生と地域との関わりを考える」

講師：竹岡寛文さん(滋賀県立大学「近江茶座」学生委員会)

講義「活動の継続」と「人」について考える

講師：近藤隆二郎さん(NPO法人五環生活代表理事・滋賀県立大学准教授)



グループディスカッション

「若者の力を地域課題解決にどうつなげるか」

話題提供：根木山恒平さん

(NPO法人五環生活事務局長・おうみ未来塾7期生)

YES  
WE  
CAN!  
miraijyuku

■第6講 ◇日時：11月17日(土)  
9:30~16:00

◇場所：高月町  
◇内容：講義「雨森の多彩なまちづくり  
の芽生えと継続のポイント  
～リーダー集団の役割から学ぶ～」  
講師：平井茂彦さん  
(高月町東アジア交流ハウス「雨森芳洲庵」館長)

座談会「多様なチカラが地域の魅力を  
掘り起こす」

話題提供：  
「ほっこりおせんどさん山里の会や  
大戸洞舎の活動紹介  
～松本さん・佐藤さんの詳しい自己紹介とともに～」

講師：松本茂夫さん(農事組合法人大戸洞舎(おどふらしゃ)専従理事)  
佐藤好伸さん(農事組合法人大戸洞舎(おどふらしゃ)専従)

話題提供「どっぼ村プロジェクトのご紹介～村上さんの詳しい自己紹介とともに～」  
講師：村上 悟さん(上山田どっぼ村をつくる有志の会)



■第7講 ◇日時：12月1日(土) 13:00~17:00

◇場所：野洲市中央公民館  
◇内容：ワークショップ「個人と組織とプロデュース」  
講師：岸田真代さん(おうみ未来塾運営委員)

■第8講 ◇日時：2008年1月13日(日) 10:00~16:00

◇場所：草津市立まちづくりセンター  
◇内容：「9期生グループ活動のカタチづくり」はじめのいっぽ!



■第9講 ◇日時：2月10日(日) 10:00~16:30

◇場所：ピアザ淡海  
◇内容「続・9期生グループ活動のカタチづくり」

YES  
WE  
CAN  
miraiyuku

## (2) サブ講義の経過 ※地域別グループによる自主企画

- 東近江・甲賀塾生会合同企画  
NPO法人蒲生野考現倶楽部に学ぼう
- ◇日時：2007年11月3日(土)  
～11日(日)
- ◇場所：しゃくなげ学校(日野町)  
・あたらしや学問所
- ◇内容：収穫祭参加  
しゃくなげ渓谷ウォーキング  
車座談義：井阪先生の講義



- 湖東湖北会企画  
「今も息づく米原・彦根エリアの歴史探訪」～湖北ならではの魅力的な地域資源に出会う～
- ◇日時：12月9日(日) 10:00～16:30 ◇場所：米原市
- ◇内容：「木彫りの里上丹生にて木彫のお話し」  
講師：森 哲荘さん(上丹生 森彫刻所代表)  
・虹鱒と四季の山菜料理 松尾寺直営 味処『醒井桜』  
・摺針峠で街道のお話(地元ガイドから)  
・廃村落「男鬼」見学  
ガイド：亀山芳香さん(滋賀県立大学濱崎研究室保存修景専攻D1)  
・鳥居本資料館で摺針餅を食べながらみんなで漫談  
ガイド：藪野光子さん(ふるさと鳥居本会会長、郷土料理の会会長)

## (3) 塾生会の経過

- 日時：7月8日(日) 13:00～14:00  
場所：近江八幡市マルチメディアセンター  
内容：・塾生会の役割 ・塾生会の持ち方・メンバー・開催時間帯など
- 日時：7月19日(日) 19:00～21:00  
場所：県立男女共同参画センター  
内容：第9期未来塾のあり方について  
・より充実した2年間のために・講義の企画や内容について  
・塾運営のあり方について
- 日時：7月28日(土) 11:00～12:00  
場所：滋賀大学大津サテライトプラザ  
内容：・本講義について・塾生会地域会のあり方について
- 日時：9月16日(日) 16:00～17:30  
場所：あいとうエコプラザ菜の花館  
内容：・本講義について・各地域会より報告や提案・今あらためて自己紹介!?
- 日時：10月7日(日) 10:30～12:00  
場所：ピアザ淡海  
内容：・本講義について・各地域会より報告や提案・今あらためて自己紹介!?
- 日時：10月21日(日) 10:30～11:30  
場所：とばや旅館(彦根市)  
内容：・本講義について・各地域会より報告や提案・今あらためて自己紹介!?
- 日時：12月1日(土) 10:00～12:15  
場所：野洲市中央公民館  
内容：グループ活動について・本講義について・サブ講義について
- 日時：2008年3月29日(土) 13:00～17:00  
場所：明日都浜大津  
内容：・グループ活動計画作り・各グループ発表



## 2008年度

### (1) グループ研究活動について

#### ■下記4グループに分かれて活動をスタート

遊人里グループ／nukunuku／しゃくなげ学校未来塾グループ／近江むかし発見隊

#### ■運営委員によるグループ研究活動サポート

日時：2008年6月15日(日)

12:45～14:15

内容：各グループが活動計画を発表し、  
運営委員によるサポートを受けた。



### (2) 塾生会について

2ヶ月に1回程度開催。

#### ■日時：5月17日(土) 13:00～16:30

場所：近江八幡文化会館

内容：各グループ活動報告・  
グループ活動サポートについて



#### ■日時：9月6日(土) 14:00～17:00

場所：米原公民館

内容：中間発表会について・  
サブ講義についてなど

#### ■日時：2009年1月25日(日)

9:30～12:00

場所：ピアザ淡海

内容：成果発表会・卒塾式について、  
報告書の作成について

### (3) サブ講義について

#### ■9期・10期合同サブ講義

「プレゼン技法を学ぶ」

◇日時：2008年12月20日(土) 10:00～16:30

◇場所：ピアザ淡海207会議室

◇内容：・導入ワーク「これまで経験した良いプレゼン、良くないプレゼン」

- ・レクチャー1「伝わるプレゼンとは何か？」
- ・ワーク1「9月の中間報告会のプレゼン検証」
- ・レクチャー2「伝わるプレゼンを作ろう！」
- ・ワーク2「プレゼンのシナリオデザイン」

・まとめ

講師：芝原浩美さん(NPO法人ユースビジョン理事・事務局長)

### (4) 世話人会について

各グループ1名が世話人となり、塾生会および発表会の運営方法等について  
連絡調整(4回開催)

12月・1月の世話人会では、報告書編集委員も合同で行った。

YES  
WE  
CAN!  
miraijyuku

4

グループ  
活動紹介

YES,  
WE  
CAN,  
miraijyuku

おうみ未来塾9期生

# nukunuku

【メンバー】

岡田啓子／神門 浩／原田正彦／南出益行



～みんなの居場所「うちの縁側」  
拠点づくりとネットワーク化をめざして～



## 「みんなの居場所」の経緯

### ①「みんなの居場所」発足の経緯

滋賀県での「みんなの居場所」づくりは、地域プロデューサーを養成する「おうみ未来塾」7期生（2005年6月～2007年3月）の土田滋男さんを中心としたグループからはじまった。（※詳細は「土田滋男さんからのメッセージ」のページをご覧ください。）

少子高齢化の現代、ひとり住まいのお年寄り・隣近所のつきあいが少なく閉じこもりがちの子育て世代等、ともすれば「孤独死」「虐待」は免れない。そんなお年寄りから子どもまで、障害のある人もない人も誰でも気軽に立ち寄れる「居場所」をつくりたい。将来的には支えあい地域づくりをしたい。そんな思いで立ち上がったと聞く。

土田さんらのグループは、みんなが気軽に集まれる場「地域の茶の間」を新潟に100ヶ所以上つくられた河田さんを招いての講演会とパネルディスカッションを、2007年2月18日に行った。同時に「みんなの居場所をつくる会」の賛同者を任意で集めかけた（年会費2000円：協力金のようなもの）。また滋賀県内に「みんなの居場所」を100ヶ所つくろう！と呼びかけられた。

そのことは地方紙の滋賀版、リビング誌などに大きく取り上げられた。



### ②「みんなの居場所」第1号「町家さろん『間』」のはじまり

2007年8月に、念願であった「みんなの居場所」1箇所目がオープンした。

その場所は、5月に一部改装したばかりの、築100年以上の町家であった。年間300万人ともいわれる近江八幡の観光地に隣接していた。

打ち合わせ会には、地元のおやこ劇場・ワールドアミーゴクラブ・子育て支援のグループ等利用希望者が参加し、実際に運営者となる地元協力者はほとんど集まっていなかった。

その後、ボランティアも徐々に増え、「コミュニティビジネス」手法も入れたカタチ形を模索しながらすすめていった。初年度は週3～4日を目処に運営してきた。



③みんなの居場所近江八幡「町家さろん『間』」の運営状況（2008年3月現在）

★成功していた（と思われる）点

- \* ボランティアの増員のおかげで、2007年10月より月・木・日の開所、2月より月・水・木・日の開所（11:00～16:00）が実現した。
- \* 留守番ボランティアボランティア同士全員が顔を合わすことがないが、日誌をつくり交換日記のように役立っている。
- \* 大家さんに理解があり、常備物はおかせてもらえ、融通を利かせてもらっている。
- \* 観光地でもあり、店頭で特産物を販売することができる。ビジネス的なことの可能性は充分ある。

★課題（と思われる）点

- \* みんなの居場所近江八幡としての代表、会計、ほか役割が不明である。
- \* 現在の収支がわからない（お金の管理は土田さんまかせ）。開所日が多いほど収支がマイナスになっているのでは？
- \* 近江八幡留守番ボランティアの名簿・連絡網がない。
- \* 20年度の事業計画・予算も決まっていない。
- \* 留守番ボランティアの中で、当初の経緯の違いで日当1000円もらっている人とそうでない人がいる。
- \* 情報を共有できる場を定期的にもっていない。



★nukunukuが地域に入り、当初計画したこと

2008. 3. 30	近江八幡ボランティア打ち合わせ会、代表世話人決定 ボランティアの意向確認（～4・7）
～4. 7	新町周辺アンケート調査（ヒアリング）…9期生・ボランティア 10～3月の実績まとめ・関係団体整理
～4. 12	アンケートまとめ
4. 12	ミーティング 今後の方向性（週2開催・イベントちらし配布）
4. 27	新装オープン 春祭り（nukunuku・地元ボランティア共同）



### ★2008年4月から2009年2月の様子

- \* 町家さろん「間」を、「みんなの居場所 うちの縁側」として位置づけをした。
- \* 代表世話人を、nukunukuの岡田啓子（近江八幡在住）が担当した。
- \* 最初のミーティングの結果、3ヶ月ごとの収支で黒字がでたら交通費程度支払うことを決めた。
- \* 月・水を開所日とした。
- \* 月1回、紙芝居、メルル・ヴォーリスのお話を開催した。
- \* 白王宮農組合さんにお願ひし、日曜日ごと地元野菜・加工品を届けてもらひ、販売するようになった。わずかだが手数料をもらっている。筍の季節などは7000円ぐらいの売上げがあった。
- \* 基本的に飲み物はすべて100円とした（ドリップコーヒーが中心）。20円ぐらいの原価であるが、おいしいものを選び、100円には施設維持費が含まれていることを伝えている。
- \* 前年同様、協力金の箱は設置しているが強制はしない。
- \* 定期的なミーティングの予定をしたが、実施できていない。
- \* 夏から、近江八幡に転入されたばかりの一人住まいの男性K氏が手伝って頂けるようになった。今ではなくてはならない存在となった。
- \* 運営ボランティアが65歳以上の高齢者が多く、本人の病気・家族の介護などで定着しないが、登録抹消せずに、ほそぼそと運営を継続している。
- \* 10月27日には、秋祭りを開催。間の玄関が改装され、ちょうど観光のシーズンとも重なり、にぎわった。nukunukuのメンバーの家族が手作りパンの販売をされ、100個販売できた。K氏はもと喫茶店のオーナーも数年されていたため 特技を活かし、紅茶のおいしい入れ方教室を同時開催した。好評だったので、その後も開いている。
- \* 冬季に入り、当番が一人の日も多い。また、売上が家賃を下回る日が多い。  
（家賃は1回500円）



### ★今後の課題

- \* 体制を整える。
- \* ボランティア増員のめどが立つまでは、日曜日のみ開所を予定している。
- \* 地域の自治会、老人会等との交流を検討する。

## 「間」ヒアリング結果

●町民さん「間」のある新町通り周辺の地元住民にヒアリング調査を行いました。

〔実施日： 2008. 3. 30～4. 7〕  
〔対象： さろん「間」のある新町周辺の100サンプル（結果81）〕  
〔ヒアリングメンバー nukunuku 4名、土田さん、「間」ボランティア4名〕

### 1. あなたの属性は？

10～20代・・・3名 20～30代・・・2名  
50～60代・・・27名 70代以上・・・49名  
男性 12名 女性 69名  
家族数1人住まい13名 2人住まい25名 3人以上43名

### 2. 「みんなの居場所」を知っていますか？

- ① 利用したことがある・・・6名
- ② 聞いたことがあるが利用したことがない・・・52名
- ③ 聞いたこともない・・・21名

### 3. 利用したことがあると答えられた方に

1回：3名 2回：2名 無回答：1名

#### …どんな利用で（箇条書き）

- \*駄菓子があるといったが、子ども向きだった（その後いっていない）
- \*お茶を飲みに。一緒に野菜も買った
- \*アロマと無人の野菜の利用（どちらもNPO法人間の会利用分）

### 4. 「みんなの居場所・うちの縁側」というコンセプトで新装オープンしたいと考えています。あなたはどんなことがあれば利用したいと思いますか？

- \*わざわざ利用したいと思わない。近所では顔がさす。
- \*情報が伝わってこない。情報不足
- \*知らないところへはいけない、気軽に入れる雰囲気があれば
- \*生活必需品、新鮮な野菜などあれば
- \*個人の趣味にあうもの、目的が必要



# 「暮らし支えあいの実践成功モデル講演会」記録

●本宮あすなろ会の九鬼さんをお招きして、講演会を実施しました。

1. 開催日時 2008年12月13日(土)  
13:30~16:30

2. 場 所 近江八幡市いきいきふれあいセンター

3. 主 催 みんなの居場所をつくる会  
未来塾9期生 n u k u n u k u

4. 参加者 27名

5. 告知方法 チラシ 2000枚配布  
朝日新聞・京都新聞案内告知 京都新聞 12月14日号取材



6. 講演内容 (講師=NPO法人本宮あすなろ会理事長 九鬼聖城氏)

\*和歌山県田辺市本宮町とは

\*NPO法人本宮あすなろ会とは 簡単に

へき地保育所をやるにも法人でないと・・・町役場にすすめられ

\*へき地保育園委託運営事業・子育てほっとスペースボランティア事業  
福祉べんり屋事業部・移送サービス事業(福祉有償運送)の紹介

\*保育園

保育園で働く保育士の給料は公務員よりは安いがそれなりに。

保育園5000万円の委託費。

\*福祉有償運送

社会福祉協議会で実施している移送サービス(43条の介護タクシー・外出支援サービス)  
もすでにある。その隙間が福祉有償運送。

田辺市福祉有償運送運営協議会に申請し、そこで認可を受けた人のみが利用できる。

タクシーの半額程度 医療機関・買い物等 AM8:00~PM4:00頃

## 7. 質疑応答

Q: NPO法人本宮あすなろ会の会員は? 正会員、賛助会員など年会費は?  
福祉べんり屋や移送サービスで働いている層は?

A: 町の委託事業をするためNPOがあるだけ。会費は特になし。補助金での運営。

会員も10名程度。ただし、私は理事長をしているが給料はもらっていない。

福祉べんり屋は中心が50代後半の方が活躍。シルバー人材センターとの競合にもならないように。プロのやらないことをする(ペンキ塗り、石積みなど...有償の支えあい)

移送サービスはつい先日まで21歳の男性が中心に行い(1ヶ月12~13万程度の収入)、あと移送サービス運転者講習を受講した者がフォローをする。

末端まで安心して暮らせる環境。都会にでていなくても本宮で最後を。さまざまな縁を大切に

## 8. 意見交換

Q：居場所を開設しているがどうしたら集まるのか？

- \* 一人でも利用してくれたことに感謝する。してやっているという気持ちはダメ。
- \* 開けつづけていることが大切。
- \* 地域のニーズをひろうこと。
- \* 野洲市、近江富士団地の事例紹介。長年の積み重ね。少しでもニーズに答える、でてこられない人の家へは訪問する。



Q：「いきがい、やりがいで元気と健康をもらえる」といった支援者側の説明がなかったのが残念であった。

## 9. アンケートより（気づいたこと、学んだこと）

- \* 適切な対価を伴うNPO運営の必要性を理解できた。
- \* 行政側の規定主義がNPO活用の道を阻む現実があることを知った。
- \* 公共交通機関もなく、上下水道も整備されていない地域の対応が暮らし支えあい民間支援事業に期待されていることが伺われた。
- \* ボランティアへの誤解があること、ボランティアを長く継続させるために「無償」ばかりを求めることはよくないこと
- \* 高齢化していく中、移送サービスを考えていたが、運営していくのが大変だと思った。ボランティアは自分のためでもあること、継続の大切さ、ネットワークを広げて人間関係をつくる。
- \* みんなの居場所が単なる慰安サロンに偏ってはいけない。いくら年をとっても社会に役立つ場につながることを最重要課題だと思う。  
元気な高齢者には今日の話のようなNPOで仕事の場を与えられれば健康も増進するし、生きがいを得て疾病にもかからず社会問題解消の一助になるろう。  
そういう観点から様々な社会支援活動こそが、これからの高齢社会を支える礎になるではないか。
- \* 福祉有償運送事業とは何かを具体的に知った
- \* 市の役人に相談する際、NPOやボランティアに対する解釈を誤っている人がまだまだいて、“利益を追求していない”とが“無償で行っている”と思われている。なので、そこからの説明が必要なので大変である、という事を学んだ。
- \* 資金づくりの方法を学んだ。



# 「暮らし支えあい」モデルケース

## ひまわり会「桜橋会館」

野洲市南桜にある旧幼稚園を利用した施設

特別養護老人ホーム「悠紀の里」のボランティアから旧幼稚園のあとを利用し、ふれあいサロン、喫茶、子育てサロンを運営しています。管理は地元自治会が行い、運営はひまわり会が行っています。

施設内にはサロンの他に卓球教室、パソコン教室、服などのリサイクルなど、さまざまなニーズに対応できるように多くのメニューがあります。

地域が高齢化を迎えていく中で、自分たちで何ができるか模索し、解決しつつあります。卓球教室は、男性の参画をよびこむため、最近開設されました。

卓球相手ができるように、経験者も探しお待ちしています。もちろんボランティアも高齢者が中心となっています。



## ♪ 土田 滋男さんからのメッセージ



みんなの居場所をつくる会の代表をしています、土田 滋男です。

私は未来塾 7 期生で、その時のグループ「絆：子育て応援団」が取り組んだ子育て応援活動が、「みんなの居場所」づくりに繋がっていきました。

地域の中で孤立する子育て世代の多いことはデータには出てきませんが、彼女たちは仕事をやめて専業主婦として社会から孤立した中で、「保育に恵まれた家庭」というレッテルを貼られて、有職の母親に比べて無視されてきています。そんな中から、子どもの虐待や、ネグレクト（育児放棄）などあってはならない多くの問題が社会の人たちに知られること無く、起こりつづけているのです。

こういった事実が判るにつけ、有職主婦よりも専業主婦の子育ての方にこそ大きな問題があると思うようになってきました。そこで、孤独な子育てをしている母親に「居場所」を与えたい、その「居場所」は子育て世代だけではなく色々な世代の人が交流する方が、母親にも子どもにも、そして高齢者をはじめとする地域みんなが笑顔で会話が交わされるようになると認識したのです。

そこで、新潟県で「うちの実家」という居場所を運営して、新潟県下全域に広げられた河田瑋子さんの講演会を企画して、その参加者を中心に『みんなの居場所をつくる会』が立ち上がりました。

みんなの居場所としては現在、近江八幡市の「うちの縁側」だけしかありませんが、同じような考えで運営されているサロン、居場所は数多くあります。そこで、「みんなの居場所をつくる会」では、直接「居場所」を運営するのは地域で活躍するボランティアさんや利用者であるべきで、会は各地域の「居場所」の情報を集め、皆さんに伝えるとともに、各居場所の長所、特徴を問題や困っている居場所に提供することで、「みんなの居場所」の運営が上手くいくとともに、各居場所の交流も図れると考えるようになりました。

そんな折に nukunuku のメンバーと一緒に色々考え、企画していくことが出来たことはとても良かったと思います。

おかげで、自分たちの手で『みんなの居場所』をつくるという無謀な考え方から、地域のあったカタチで、いろいろな形態の「みんなの居場所」があり、みんなの居場所をつくる会のメンバーはそれぞれの地域でその活動に携わると同時に、全域的な情報交換や交流で、より居心地の良い「居場所」づくりに尽力できるようになるのではと気づかせてくれた nukunuku の皆さんに感謝しています。

## ♪ グループメンバーから一言

### ●nukunukuグループを振り返って 神門 浩

「みんなの居場所」づくりを未来塾9期生の私の課題として1年間行ってきました。高齢者や子どもたちが何気なく集まれる場所が周りに見渡してあるのかなー。というのが一番の問題意識でした。30年もたつ新興住宅地では、高齢化率が高くなり、地域全体でみんなが集まれる場所を、それぞれが工夫しながら作っていたり、就学前の子どもをもつ、親同士で子育ての相談ができる場所を作っていたり、必要としている人たちがいるんだということに確信を持ちました。では、そのような場所のネットワークをつくれればもっと大きな輪になるはず。近江八幡の「みんなの居場所、うちの縁側」での実践を通してネットワークづくりを考えていましたが、道半ばで1年が過ぎました。今後は私の住む水口町をベースに活動を続けていこうと考えています。まだまだ昔ながらの地域が形成されている町ですが、将来はわかりません。今、地域の仲間と一緒に地域づくりを考える時です。未来塾で学んだとことを、ぜひ生かせるようにすすんでいきます。

### ●nukunukuグループ参加への思い 南出 益行

- ・超高齢社会へと進んでいる日本ですが、自分の住んでいる街が、高齢者にとって、どんな街なのか？ どうすれば、年齢や障がい等に関わらず、住みやすい街となるのか？そのヒントが得られればと思い、参加しました。
- ・核家族が増え、世代間の交流が減ってきているので、サロン間のような場所が必要ではないか、どこの地域でも必要だと思うので、そのような場所を増やしていく考えに賛同し、1年間活動してきました。これからの自分の生き方に役立てます。

### ●振り返って 原田 正彦

1年のほとんど、体調を崩し、メンバーに迷惑をかけてしまいました。しかし「みんなの居場所づくり」は不可欠であり、永遠のテーマだと思います。これからの自分の人生でも探し求めて生きていきたいと思います。

### ●おわりに 岡田 啓子 (リーダー)

地域プロデューサーとは……。永遠のテーマだろう。だが、この2年間を通し、「繋げるひと」「しくみをつくるひと」でもあるべきだと思った。

私たち、nukunukuの4名は、それぞれ思いがけない長期の病や家族の出来事に見舞われた。

しかし、そんな私たちだからこそ、お互いを優しく見守り、支えあえる仲間となれた。

かかげた目標の数パーセントしか達成できなかったけれど、土田さん、近江八幡の「うちの縁側」の運営協力者、未来塾9期生の仲間、この報告書の編集にご協力いただいた7期生の藤田さん等、かえがえない人たちとの出会いに感謝している。この先も、絆が永遠であることを確信する。

「うちの縁側」のテーマは、暮らし・支えあい。これこそ、生活の基盤でなかりうか。私たちは、これからもそれぞれの身の丈にあった活動、「ゆるやかなネットワークづくり」を継続していく。

# 自然体験を通じた子育て支援事業 「あまのじゃくくらぶ」



<http://yutori.shiga-saku.net/>

都市化の進む大津市内で未就学児とその保護者を対象に、自然体験を通じた子育て支援事業「あまのじゃくくらぶ」を実施しました。核家族化や地域コミュニティの崩壊により、現代の子育ては孤立した環境にあります。また、幼少時に自然と遊ぶ楽しさを知らずに育った人の多い団塊ジュニア世代が親となり、自然と共に生きるための人々のセンスが低下しています。私たちは五感を用いた自然遊びを通じて、子どもたちの「センス・オブ・ワンダー」と「生きる力」「環境意識」を育み、そのなかで地域の人と人、人と自然のつながりと、みんなが地域の豊かさに気付き地域を愛し行動するきっかけをつくり、子どもと大人と地域を元気にすることをめざします。

(滋賀県子ども未来基金助成事業)

## 遊人里（ゆとり）グループ



金森秀生



香林美由起



原田優美



南村多津恵



向久保恵美

## 1. グループ結成のきっかけ

1月13日（日） 未来塾本講義

「子育て・親育て」をテーマに3人が集まる

1月28日（月） 第1回ミーティング

5人が参加、想いの共有

1月31日（木）

9期生メーリングリストにて、一足早くグループ立ち上げ宣言！

## 2. 問題意識

核家族化や疎遠化する地域関係により孤立した子育て環境

→大人の子育て力の低下

自然の中での遊び方を知らない大人の増加

→子どもの自然体験力の低下

↓

子どもの「生きる力」の低下

思いつめた保護者による痛ましい事件の発生

地域の自然が大切にされない状況

↓

子どもが自然の中でいきいきと遊ぶ機会が必要

保護者が仲間とコミュニケーションする機会が必要

## 3. 計画立案（初期）

都会化する天津市中心部をフィールドにしよう

若い世代の流入によりコミュニティの希薄な場所が増えている

市街地だが、近くに気軽に歩いて遊べる里山「膳所の山辺」がある

## 4. マーケティング（市場調査）

- ・子どもが保育園や幼稚園、小学校に上がるまでの間、保護者同士がつながれる場がない
- ・行政も子育て支援に力を入れるようになってきたが、室内での遊び場や〇〇ひろばが主流で、参加者が受け身のものが多い
- ・自然の中で遊んでいる親子とまったく遊ばない親子が二極化（各々の子育て経験と天津市立平野幼稚園でのヒアリングより分析）  
→対象を「自然体験の機会が少ない未就学児とその保護者」と設定

## 5. ポテンシャル（資源）分析

事業に協力してくれそうな人、団体、使えるな場をピックアップ

（未来塾全体会の小ワーキングで模造紙を用いて整理）

膳所の山辺を愛する会（火が使える森を管理）

天津市立平野幼稚園の園長先生（2007年度で退職）

琵琶湖博物館の森のおにいさん（学芸員の西村知記さん）

天津市環境保全課の中野さん（環境基本計画のからみ）

うおーたんの自然体験プログラム（滋賀県環境学習支援センター）

天津市科学館（プラネタリウム、化学実験）

寺尾尚純さん（里山での音楽ワークショップ）

オーパルオプテックス株式会社の山脇秀錬さん、川崎睦男さん

JSTイノベーションサテライト滋賀の山本奈美さん

河川レンジャーの高田拓朗さん

## 【2008年】

1月13日（日）

未来塾本講義

1月28日（月）

第1回ミーティン

グ（ミニユーブ

瀬田）

2月10日（日）

未来塾本講義

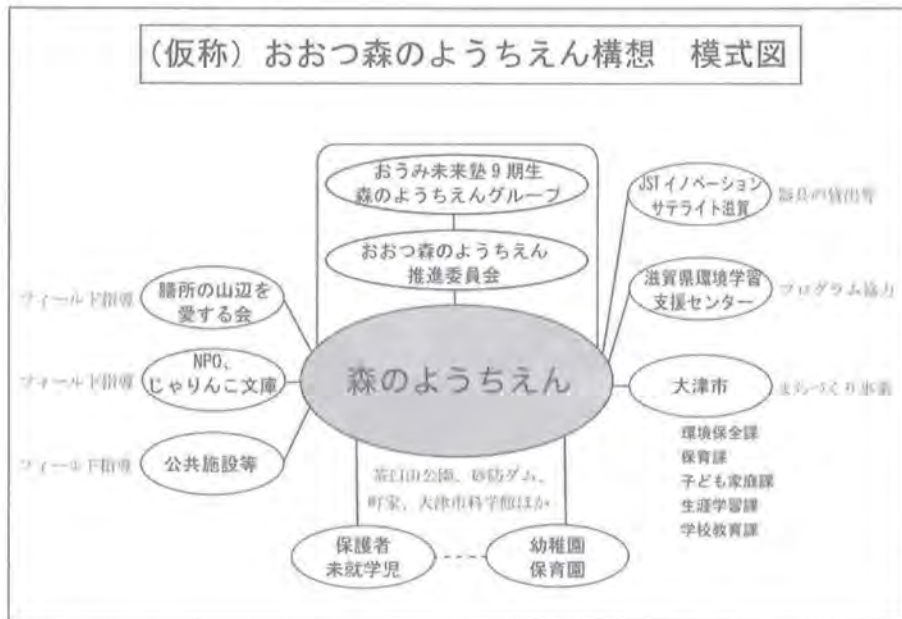
模造紙を使って

課題整理

マーケティング  
平野幼稚園での  
聞き取り調査

栗東自然観察の森のリーダー養成講座修了生  
 滋賀大学環境学習支援士、学生スタッフ  
 おおつ自然観察の会  
 滋賀県ネイチャーゲーム協会  
 バス→大津市、滋賀女子短大、ネットワーク天気村  
 じゃりんこ文庫  
 未就学児童支援の先行事例→彦根のぼぼハウス、草津の天気村

## 6. 事業の模式図を作成



私たちは、自分自身が講師になるのではなく、場をつくり、地域のいろいろな資源をつないで、実践していこう！

## 7. 事業のコンセプト

- ・保護者が孤独を感じる平日の昼間に実施する
- ・繰り返し学べるよう会員制の連続企画にする
- ・日常の生活リズムで無理なく参加できる
- ・子どもと大人と一緒に学ぶ
- ・自然の中で五感を使って楽しむ
- ・環境に配慮した行動を学べる
- ・参加者同士、講師、グループメンバー、フィールドがつながる

## 8. 将来ビジョン・夢

地域を広げる（京都など）  
 学童保育とリンクする  
 幼稚園をつくる（指定管理をとる）

（参考）

「森のようちえん」とは、自然環境の中での幼児教育や保育、子育て支援活動を指します。デンマークで始まって北欧を中心に支持され、世界各地で実践されています。NHKが2007年10月28日に「里山保育が子どもを変える」という番組を放送し、反響を呼びました。



9. 現地へ下見に行こう！

膳所の山辺、じゃりんこ文庫を2日にわたり下見



- フィールドとしては魅力的、しかし、
- ・道中に危険箇所あり
  - ・アクセスが悪い（最寄り駅から3km）
  - ・トイレはどうなる？
  - ・雨が降ったら？

……等々、課題山積



2月18日（月）  
膳所の山辺下見

2月22日（金）  
膳所の山辺・じゃりんこ文庫下見

10. 企画の仕切り直し

自然を知らない人に、いきなり「苦勞して山に行こう！」は無理が大きい



フィールドをまちなかの身近な公園にする  
信頼関係ができ、自然と遊ぶことの楽しさに気づいたら、里山にステップアップする。

3月13日（木）  
第2回ミーティング  
（ミニカーブ瀬田）

目的・内容確認、  
「遊人里」「あまのじゃく」名決定

あそんで  
まなんで  
のんびり  
じっくり  
やるきいっぱい  
くらしいきいき

11. 活動計画書を作成

グループ名	おうみ未来塾9期生 遊人里（ゆとり）グループ
テーマ	自然体験を通じた子育て支援
課題・背景	☆自然や遊びを知らない大人の増加 →子どもの自然体験力の低下 ☆核家族化や疎遠化する地域関係により孤立した子育て環境 →大人の子育て力の低下
目的	☆地域の人と人、人と自然のつながりをつくる ☆自然や人など地域の財産や多様性等の豊かさに気づききっかけをつくる ☆楽しみながら自然を学び、環境に配慮した行動ができ、「センス・オブ・ワンダー（自然の神秘さや不思議さに目を見張る感性）」と「生きる力」を持った子どもの育成
内容	☆子どもも大人もほんもの体験のできる場づくり ☆子どもと大人で体験を通じて、いのちの大切さを実感できる場づくり ☆自然体験を通じて環境にも配慮した楽しい学びの場づくり
到達目標	☆子育て中の保護者を支援するための、子どもと大人の学びの場づくり ☆保護者同士の情報交換やコミュニケーションの場づくり ☆自然体験を日常の暮らしに取り入れるきっかけづくり ☆五感を大切に子どもと大人の自然体験型環境教育プログラムの推進



屋上庭園



膳所公園



長等公園

3月29日（土）  
未来塾本講義 第3回ミーティング  
（明日都浜大津）  
公園の下見→長等公園に決定

12. 会場にする公園を設定

屋上庭園、膳所公園、長等公園を下見。

できるだけ自然に近いイメージのところ＝長等公園に決定

### 13. 素案の作成

- 第1回 5月 葉っぱや花で遊ぶ
- 第2回 7月 虫と遊ぶ
- 第3回 9月 キノコで遊ぶ
- 第4回 11月 ドングリで遊ぶ 里山体験
- 第5回 1月 科学で遊ぶ プラネタリウム&科学実験
- 第6回 3月 手作り楽器で遊ぶ 森のコンサート

→JSTイノベーションサテライト滋賀との協力が不調になったこと、  
事業に協力いただく方に難色を示されたこと、  
幼児には難しいことから、「科学」を「絵本」に差し替え

### 14. あまのじゃくくらぶ年間スケジュール確定 (5月)

- ☆第1回 自然はともだち！  
6月17日 (火) 午前10:00から午後1:00 長等公園  
案内人：清水 滋さん (環境カウンセラー)
- ☆第2回 ぼくらはみんな生きている  
7月7日 (月) 午前10:00から午後1:00 皇子が丘公園  
案内人：清水 滋さん (環境カウンセラー)
- ☆第3回 のこ・のこ・きのこの国へようこそ  
9月25日 (木) 午前10:00から午後1:00 長等公園  
案内人：小田 貴志さん (小田環境教育事務所 代表)
- ☆第4回 膳所の山辺でドングリたんけん  
11月23日 (日) 午前10:00から午後2:00 膳所の山辺  
案内人：山崎 正博さん (膳所の山辺を愛する会 代表)  
西村 知記さん (琵琶湖博物館 学芸員)
- ☆第5回 わたしの森の絵本をつくろう  
1月20日 (火) 午前10:00から午後1:00  
長等公園、まちなか交流館ゆうゆうかん (※後に変更)  
案内人：乾 京子さん (じゃりんこ文庫 主宰)  
藪内 秀美さん (絵本作家)
- ☆第6回 手作り楽器でゆかいな森のコンサート  
2月21日 (土) 午前10:00から午後1:00  
長等公園、まちなか交流館ゆうゆうかん (※後に変更)  
案内人：ワークショップ音景色

4月17日 (木)  
第4回ミーティング (遊人里グループ総会) (草津まちづくりセンター) 全6回の内容設定

4月27日 (日)  
第5回ミーティング (県立男女共同参画センター) 進捗確認、助成金獲得や後援依頼など準備開始

5月 2日 (金)  
清水滋さん訪問、企画相談

5月10日 (土)  
第6回ミーティング (淡海ネットワークセンター) ちらし原稿制作、助成金申請書制作



「あまのじゃくくらぶのうた」もできました♪



## 15. 実施に向けて

### (1) 広報

#### ★メディア

・FM滋賀ラジオ「マイ エコロ スタイル」出演(5月23日)・読売新聞 告知掲載(6月10日)・朝日あひあい AI滋賀に報告掲載(7月2日)・大津市広報 6月15日号、11月1日号に告知掲載

#### ★チラシ配布

・淡海ネットワークセンター登録団体の各ポストに投函・大津市役所(環境、保育)・湖南の市役所、保健センター、子育て支援センター、図書館、親子広場・大津市市民活動センター・大津市平野支所・平野幼稚園・平野幼稚園にここ広場の親子・大津市子育て総合支援センターゆめっこ・まちなか交流館ゆうゆうかん・大津市生涯学習センター・ウォーターステーション琵琶・草津市立まちづくりセンター・膳所児童館・おおつ親子劇場・子育てサークルママブリ・県立近代美術館・県立図書館・琵琶湖博物館・水環境科学館・近江富士花緑公園・栗東自然観察の森・みなち子ども森自然館・大津市地域子育て支援センター風の子保育園・子育て支援センターつどいの広場「にじっこ」・福祉ネットワークセンター「ゆめふうせん」・大津市内の公民館36館・その他

#### ★インターネット

・「あまのじゃくくらぶ」ブログで発信・おおつSNS、mixiに書き込み・「週刊びいめ〜」のメルマガに掲載(NO.503 2008.5.3)・メールマガジン「そよかぜ」に掲載(第73号 2008.6.5)・「キープ協会環境教育事業」メルマガに掲載(NO.248 2008.6.9)・「環境市民メールニュース」に掲載・「環境市民ボランティアひろば」掲示板に書き込み

### (2) 新たに協力者が現れる

- ・大津市子育て総合支援センターゆめっこ 職員研修として当日の運営サポート
- ・河川レンジャー、元幼稚園園長先生 当日の運営サポート

### (3) プロジェクト運営の工夫

- ・各回に担当を設定、担当中心に準備
- ・あまのじゃくくらぶブログ積極活用
- ・非公開ブログ、Yahooカレンダー活用で情報共有を進める



## 16. 活動状況

あまのじゃくくらぶ全6回の他に、様々な地域活動に参加

### ★あまのじゃくくらぶ第1回

「自然はともだち！」6月17日

参加しやすいように1回目は誰でも受付、会員登録は2回目以降でOKとする  
定員20組に28組の応募 すべて受け入れ  
参加者アンケートで好評、清水滋先生、大津市環境保全課、ゆめっこからお褒めの言葉



★あまのじゃくくらぶ 第2回「ぼくらはみんな生きている」7月7日

昼食時、子どもの年齢でグループ分け、保護者間の交流を図る

★第2回「おおつ協働フェスタ」ポスター出展 7月27日



### ★大津市「みんなで育ち愛フォーラム」

第4分科会に協力 8月23日

親子対象に葉っぱのお面づくり。子どもと自然の関わりを話す分科会の前座を担当

5月16日(金)

ちらし配布開始

5月19日(月)

ブログ本格開始

5月23日(金)

ラジオFM滋賀

77MHz出演

5月25日(日)

第7回ミーティング

(養林寺)第1回の準備、滋賀県子ども未来基金助成金申請書確定、グループ発表準備

5月28日(水)

社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会

「子ども未来基金」に助成金申請

6月7日(土)

第8回ミーティング

(淡海ネットワークセンター)

6月11日(水)

清水先生と下見

6月15日(日)

第9回ミーティング

第1回の準備作業(淡海ネットワークセンター)

6月17日(火)

あまのじゃくくらぶ

第1回「自然はともだち！」(長等公園)

第10回ミーティング

(まちなか交流館ゆうゆうかん)

6月29日(日)

第11回ミーティング

第2回の準備作業(金森邸)

7月3日(木)

清水先生と下見

7月7日(月)

あまのじゃくくらぶ

第2回「ぼくらはみんな生きている」(皇子が丘公園)

7月14日(月)

「滋賀県子ども未来基金」助成獲得

7月17日(木)

草津まちづくりセンター、21日(祝)22日(火)ピアザ淡海、23日ネットワークセンター 協働フェスタ出展準備、25日(木)搬入

7月27日(日)

第2回おおつ協働フェスタ ポスター出展/搬出(浜大津明日都)

★あまのじゃくくらぶ第3回  
「のこ・のこ・きのこの  
国へようこそ」9月25日  
参加者もスタッフもだい  
ぶ慣れた感じで進行  
子どもはきのこが好きな  
ことを発見



★草津市立志津南小学校  
「秋ってだいすき！」2年  
生の授業協力 10月10日  
淡海ネットワークセン  
ター経由で、「子どもの  
美術教育をサポートする  
会」から授業協力を依頼  
される。運営サポートか  
と思いきや、自然体験の  
プログラム提供を求めら  
れ、あわてるが乗り切る



★あまのじゃくくらぶ第4回  
「膳所の山辺でどんぐり探  
検」11月23日  
会員の友人の参加も可  
総勢81名（参加者21家族  
大人28名、子ども31名、  
スタッフ 大人15名、  
中学生2名、小学生5名）  
山の中でのたき火、どんぐ  
り通貨、山の料理、山の  
トイレなど、参加者に  
とって新鮮な体験を提供  
参加者アンケート「最も  
印象に残った回」の一番  
人気

8月6日(水)  
第12回ミーティング  
(義林寺)中間発表会準備  
8月18日(月)  
第13回ミーティング  
(草津まちづくりセンター)  
8月23日(土)  
大津市「みんなで育  
ち愛フォーラム」第4  
分科会担当(ふれあ  
いプラザ)  
9月6日(土)  
塾生会(米原公民館)  
9月12日(金)  
小田さんと下見  
9月23日(火・祝)  
おうみ未来塾中間発  
表会(ピアザ淡海)  
9月25日(木)  
あまのじゃくくらぶ  
第3回「のこ・のこ・きの  
のきの国へようこそ」  
(長等公園)  
10月1日(水)  
志津南小プログラム  
現地下見1(希望が  
丘文化公園)  
10月2日(木)  
志津南小プログラム  
現地下見2(希望が  
丘文化公園)  
10月6日(月)  
清水先生訪問御礼  
第14回ミーティング  
(大津市市民活動センター)  
10月10日(金)  
志津南小「秋ってだい  
すき！」授業サポート  
(希望が丘文化公園)  
10月23日(木)  
西村知記さん・山崎  
正博さんと膳所の山  
辺下見(膳所の山辺)  
10月25日(土)  
森のムッレ協会ク  
ニュータナ教室研修  
参加(大阪大谷大学)  
10月26日(日)  
第15回ミーティング  
(藤本邸)  
11月2日(日)  
膳所の山辺定例活動  
日を訪問・打ち合わ  
せ(膳所の山辺)  
11月6日(木)  
第16回ミーティング  
(草津まちづくりセンター)  
11月10日(月)  
西村知記さんと打ち  
合わせ(膳所の山辺)  
11月20日(木)  
第4回の準備作業1  
(膳所の山辺)  
11月22日(土)  
第4回の準備作業2  
(膳所の山辺)



★あまのじゃくくらぶ特別  
企画「絵本作家・川端誠  
さんと絵本を読見ましょ  
う」1月16日  
大人61名、子ども14名が  
参加。絵本ライブ+講演  
会。笑いあり涙あり好評



★あまのじゃくくらぶ第5  
回「わたしの森の絵本を  
つくろう」1月20日  
長等公園散策の後、長等  
神社社務所で絵本制作。  
子どもたちがうれしそう  
に作品発表



★あまのじゃくくらぶ第6  
回「手づくり楽器でゆか  
いな森のコンサート」  
(最終回) 2月21日  
長等公園散策の後、園城  
寺(三井寺)で楽器製  
作、演奏会、修了式

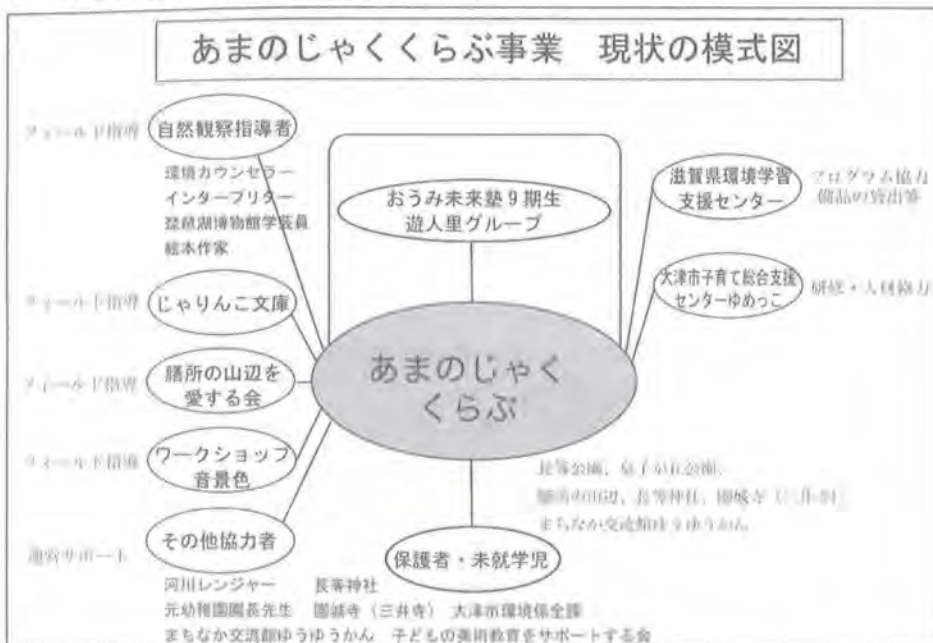


11月23日(日)  
あまのじゃくくらぶ  
第4回「膳所の山辺で  
どんぐりたんけん」  
(膳所の山辺)  
12月15日(月)  
藪内さんと第5回の  
下見(上栄駅~長等公園)  
乾京子さん、藪内秀  
美さんと打ち合わせ  
(まちなか交流館ゆ  
うゆうかん)  
12月18日(日)  
第17回ミーティング  
(草津まちづくりセンター)  
12月20日(土)  
おうみ未来塾サブ講  
義「プレゼン手法を  
学ぶ」(ピアザ淡海)  
【2009年】  
1月8日(木)  
ワークショップ音景  
色と打ち合わせ(ピ  
アザ淡海)  
1月11日(日)  
第18回ミーティング  
(草津まちづくりセンター)  
1月14日(水)  
長等神社下見(長等  
神社)、園城寺訪問・  
打診(園城寺)  
1月16日(金)  
あまのじゃくくらぶ  
特別企画「川端誠  
さんと絵本を読見ま  
しょう」(まちなか交  
流館ゆうゆうかん)  
1月17日(土)  
おうみ未来塾10周年  
記念大交流会(栗東  
芸術文化会館さくら)  
1月20日(火)  
あまのじゃくくらぶ  
第5回「わたしの森の  
絵本をつくろう」(長  
等公園、まちなか交  
流館ゆうゆうかん)  
園城寺下見(園城寺)  
2月2日(月)  
第19回ミーティング  
(ピアザ淡海)  
2月13日(金)  
第20回ミーティング  
(草津まちづくりセンター)  
2月15日(日)  
川端さんと散策(塚田)  
2月16日(月)  
川端誠さん講演会の  
サポート(園城寺円  
満院)、園城寺と打  
ち合わせ、観音堂周  
辺下見  
2月17日(火)第21回  
ミーティング(ピアザ)  
2月21日(土)  
あまのじゃくくらぶ第  
6回「手作り楽器でゆか  
いな森のコンサート」

17. やって見た中から見えてきたこと

- ・幼児が自然体験できる場の提供が必要
- ・保護者がつながれる場の提供が必要
- ・大津市環境保全課とゆめっこの環境学習に関する意識のズレを発見  
→あまのじゃくくらぶは間をつなぐ存在になり得る

18. あまのじゃくくらぶ 現状の模式図



2月26日(木)  
第22回ミーティング  
(草津市立まちづくりセンター)

当初に描いていた図(右)との比較

- ・推進委員会がない
- ・幼稚園や保育園と協力がいない
- ・JSTや科学館と協力がいない
- ・子育て支援センターゆめっこの協力
- ・まちなか交流館ゆうゆうかんの協力
- ・環境カウンセラー、河川レンジャー、元平野幼稚園園長先生、大阪のNPO、未来塾9,10期生、長等神社、園城寺(三井寺)の協力



最初に描いた図は背伸びがあった  
地域を巻き込んだ推進体制ができるには先に実績が必要

3月4日(水)  
おうみ未来塾成果発表会の資料作成(淡海ネットワークセンター)(予定)

3月5日(木)  
第23回ミーティング(草津市立まちづくりセンター)(予定)

3月7日(土)  
おうみ未来塾成果発表会と卒塾式(ピアザ淡海)(予定)

3月26日(木)  
第24回ミーティング+打ち上げ(予定)

19. アンケート評価の結果1 会員アンケート

最終回アンケートより(回収10枚)

- ★終了後もつながれそうな人はいたか? はい5名、いいえ3名
- ★参加前後で、自然や環境に対する思い・意識・行動の変化は? とても変わった2名、少し変わった5名
- ★最初のお願ひ(環境配慮型行動)はどの程度できた? ほとんどできた3名、半分できた4名、少しできた1名
- ★今後の期待  
来年もぜひ/土日など幼稚園が休みの日に参加したい/今のまま、じっくり五感で楽しめるものを/回数が増えるともっとうれしい

全6回のアンケートから参加者の変化を分析すると→

- ・特別ではない地域の自然に気づき、身近な自然を楽しむようになった
- ・興味をもって歩くことを楽しむようになった
- ・ゆっくりと周りに目を配る余裕が生まれている
- ・自然への感謝の気持ちが生まれている
- ・子どもだけでなく 母親も楽しんでいる
- ・親子で共感して遊ぶ楽しみに気がついた



## 20. アンケート評価の結果2 協力者アンケート

事業の実施に協力いただいた案内人、補助スタッフによる評価（9枚）

★参加の感想 とてもよかった8名 よかった1名

一体感があるゆったりとした雰囲気、参加者同士わきあいあいとしていた／主催側に気負いがなく、自然体で楽しんでつながっていると感じた／暮らしに身近な場所を活動フィールドに、年間を通した自然遊びはありそうでない。“センス・オブ・ワンダーや生きる力を育てる”最高のプログラム／子どもたちの野生のようなものが失われつつある環境にあって、「場」を設定し、ある程度お膳立てをしなければ、育たなくなっている。そんな子どもを取り巻く環境にあって、”とてもよかった”と思う。

★改善案 よくやっているがぎりぎりの対応が多いように思った／子どもの成長段階に対し、内容が少しよくばりすぎの感もあった／事業の継続性から、スタッフに経済的負担がかからない仕組みづくりが必要

★「子どものセンス・オブ・ワンダーや生きる力を育てることと、地域のつながりをつくること」という目的はどの程度、達成できていた？

かなりできていた6名 そこそこできていた1名 わからない2名

（「わからない」の中身は「すぐに結果は出ないが方向性は正しい」）

★今後の協力をお願いできるか

より主体的に関われる3名、同程度に関われる4名、わからない2名

★今後の期待

続けてほしい7名／会員が今後つながっていく機会があるとよい／修了した子どもも単発で参加できるイベントがあれば／もう少し力を抜いて、何日の何時にここに行けば何かあるという場をつくれたら

## 21. アンケート評価の結果3 自己評価アンケート

メンバー5人で自己評価アンケートを実施（5枚）

ア. あまのじゃくくらぶを実施してよかったと思うか \*平均 99.6 点

子どもや保護者に、自然のすばらしさや自然の中で遊ぶ楽しさと感動を知ってよるこんでもらえた／企画をたて実行するまでに必要なプロセスがわかり勉強になった／子育て支援に必要なこと、参加者が求めているものにつき、アンケートや聞き取りができた。

イ. 到達目標は達成できたか \*平均 87 点

きっかけづくり、五感を大切に自然の中で命を感じるプログラムの実施、子どもと大人の学びの場づくりはできた。イベントでの展示、環境学習プログラムの提供、ブログでの情報発信により、社会への広がりもつくれた。到達目標にはおおむね達している／保護者同士の情報交換の場づくり、プログラムを推進するリーダーの役割を担うところは今一步。地域を動かすところまでは達していない。（これは到達目標外）

ウ. 遊人里グループは地域プロデューサーとして活動できたか \*平均 81 点

たくさんの方に協力いただいて事業を進めることができ、参加者や関わってくれた人に満足してもらえた。新しくすばらしい活動ができたと思うが、肝心な地域の方を巻き込んだ活動が展開できていない／やっとならなくなってきたところ。今年度はスタートだと位置づければ合格点。ここでやめれば落第／まちなか交流館ゆうゆうかんや志津南小学校とプログラムができたこと、長等神社や三井寺とつながりができたことがよかった。

エ. 来年度も活動を続けたいか \*平均 92.6 点

子育て支援をしたい／子どもに自然体験は必要／小さいときに体験したことは忘れない！／ほんもの体験ができ、自分も成長できる／楽しく意義のある活動／ここでやめたら地域プロデューサーとして失格

22. あまのじゃくくらぶ事業を終えて（ふりかえりミーティングでの評価）

やりたかった「森のようちえん」をやり遂げた！という満足感は100%  
 参加者の満足感、協力いただいた案内人やスタッフ等の満足感も高い  
 しかし、もやもや感が残る  
 意外に地域とつながっていない、未来塾の理念としては足りない  
 それで、中間発表でもらった「制度化して継続」という次への課題だったのでは？

↓  
 地域プロデューサーとしての不満足感

自分たちがやりたいことをやっただけだったのでは???

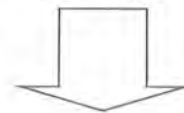
大津市内という対象地域は広すぎたのか（「滋賀県子ども未来基金」は広げよという意向）  
 「地域」と結びつける工夫が必要だった

↓  
 ここで終わると、成果が次に続かない。各々の参加者が自分の子と自然を楽しむだけ  
 これでは地域プロデューサー失格！  
 だけど、これは1年間やってきたから気づいたこと→わかったということは、大成長！

23. 自然体験を通じた子育て親育ての理想形

- ・「あまのじゃくくらぶ」のような場が市内の何カ所かで常時開かれている  
 →保護者同士がつながれる
- ・保育園や幼稚園で自然体験型の環境学習が取り入れられる  
 →子どもの健全な成長と地域の環境保全
- ・地域の人々が参画し場をつくりリーダーとなる  
 →三世代交流、地域コミュニティの再生

実現のために  
 何をするか

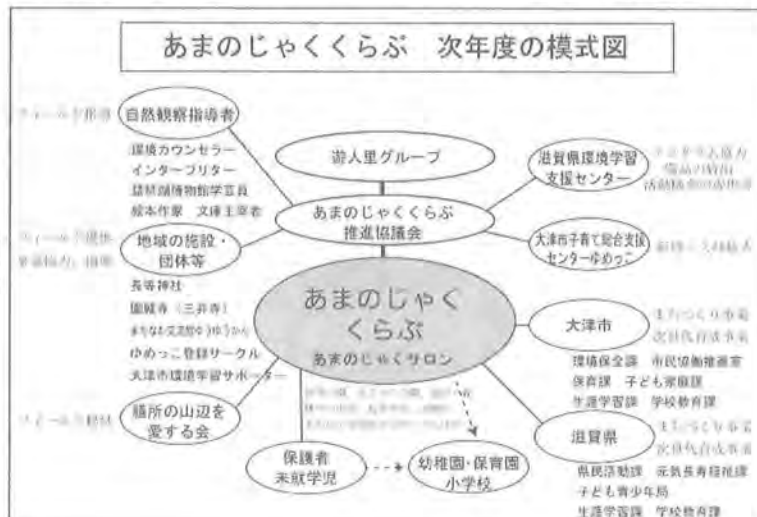


24. 地域プロデューサーとしての遊人里グループの今後の展望

- ・特技を活かすなど、参加する保護者にも役割を持ってもらう
- ・何年も続けて、保護者が子育てから手が離れるとリーダーとして参加できるようにする
- ・くらぶを卒業した子どもが、ジュニアリーダーとして参加できるようにする
- ・地域とのつながりを模索している長等神社と園城寺（三井寺）に協力実施を呼びかける
- ・大津市や滋賀県の環境課、生涯学習課、幼児課などにヒアリングして連携の機会を探る
- ・ゆめっこに登録されているサークルや、大津市に登録されている環境学習サポーターなどとの連携を考える

★理想は高く、活動は地道に  
 ★同じパワーでは持続不可能なので、労力の少ないゆるい会を増やす

2009 年度もやります！  
 ご協力をお願いします！！



遊人里グループの最新情報はこちらでチェック！  
 あまのじゃくくらぶブログ <http://www.yutori.shiga-saku.net>

おうみ未来塾9期生

# 近江 むかし 発見隊



黄レンジャー  
岩根秀雄

緑レンジャー  
大橋正彦

桃レンジャー  
小林理恵

青レンジャー  
森 俊一

赤レンジャー  
中尾文男

黒レンジャー  
迫間勇人

あかね うみ  
「茜差す緑の山河青い湖、  
よくや ことがね とおり さずな  
黒い沃野に黄金の実り、桃李のかほりつむぎし絆」

近江には多くの実りがあります。山、川、湖、大地の実り。そして、人々の言の葉の実り、民話や歴史の伝承です。私たちは、その民話や伝承を、地域興し、それも世代間の絆を深めるような、継続可能なものとして生かせないかと考えました。幸い、彦根の花しょうぶ通り商店街のみなさまとのご縁をいただき、この秋の収穫に向けて出動しました。各隊員、六人六色（赤・緑・青・黒・黄・桃）の個性と強みを発揮して、牛歩ながらも前進中です。

地域の隠れた民話や歴史などを次の世代に伝承する。



# 「近江むかし発見隊」団体概要

## 課題・背景

その地域ごとに消えゆく可能性のある民話や歴史の伝承がある。地域の人たちの交流が希薄になってきている。とりわけ世代間の交流は途絶えがちである。地域の人たちの手による地域興し、それも世代間の絆を深めるような、継続可能な取り組みが求められている。高齢化が進む今、地域の民話や歴史の伝承の継承は一年ごとに困難さを増すことになる。早急な取り組みが必要である。

## 到達目標

- 1、絵本・紙芝居・映像として、また、劇・人形劇の脚本として、形あるものにし、地域に引き継いでいく。
- 2、地域の方々を巻き込む（三世代交流）形での発表の場をつくる。
- 3、次の民話や歴史を伝承する活動を次年度以降も継続する。

## これまでの経緯

2008年  
3月～

企画案制作・媒体決定・現地調査

- 3/29 未来塾 浜大津 近江むかし発見隊メンバー・役割決定
- 4/12 見学 近江高島図書館
- 5/12 ミーティング 近江八幡
- 5/13 彦根花しょうぶ通り商店街理事会出席 戦国丸
- 5/17 未来塾 発見隊だれも出席せず心配をかける
- 6/9 ミーティング 近江八幡
- 6/23 ミーティング 近江八幡  
佐和山登山を企画するも荒天や体調不良、仕事が重なり果たせず
- 7/12 ミーティング 彦根 戦国丸
- 8/2 ミーティング 米原公民館
- 8/19 彦根花しょうぶ通り商店街理事会出席 戦国丸
- 8/26 ミーティング 彦根 アルプラザ  
花しょうぶ通り商店街理事会出席 戦国丸
- 8/27 佐和山城研究家に依頼
- 8/28 井伊直弼と開国150周年祭事業に応募
- 9/23 未来塾中間発表
- 9/30 彦根花しょうぶ通り商店街理事会出席 戦国丸
- 10/11 戦国丸 脚本の完成
- 10/14 彦根花しょうぶ通り商店街理事会出席 戦国丸
- 10/17 ミーティング 近江八幡
- 10/21 彦根花しょうぶ通り商店街理事会出席 戦国丸
- 10/22 ミーティング 近江八幡
- 10/28 彦根花しょうぶ通り商店街理事会出席 戦国丸
- 10/31 ミーティング 近江八幡
- 11/4 ミーティング 彦根 アルプラザ  
花しょうぶ通り商店街理事会出席 戦国丸
- 11/9 花しょうぶ通り商店街 芝居稽古 戦国丸
- 11/18 花しょうぶ通り商店街 芝居稽古 戦国丸
- 11/22 彦根佐和山山麓の会場にて前日リハーサル
- 11/23 「義の旗のもとに」イベントにて上演
- 11/24 花しょうぶ通り商店街理事会出席 戦国丸
- 12/9 花しょうぶ通り商店街理事会出席 戦国丸
- 12/10 ミーティング 近江八幡
- 12/16 花しょうぶ通り商店街理事会出席 戦国丸
- 12/22 ミーティング 近江八幡
- 1/12 ミーティング 彦根  
劇協力者の方々と親睦
- 1/17 おうみ未来塾10周年記念大交流会ポスターセッション参加
- 1/31 練習会 彦根
- 2/6 リハーサル ひこね市文化プラザ
- 2/7 「彦根市民活動ふれあいまつり」にて上演・展示
- 2/12 ミーティング 近江八幡
- 2/21 ミーティング 近江八幡
- 3/1 発表リハーサル 米原
- 3/22 四番町スクエアにて独自上演  
(4/12&6/6・7も上演予定)

「民話紙芝居・人形劇」の創作グループとの交流会



ここで初めて発見隊メンバー全員と顔を合わせる・・・!



花しょうぶ商店街 前理事長 中講さんとお会いする



花しょうぶ通り商店街にて立ち稽古



「義の旗のもとに」の再会劇イベントには、全国各地から熱狂的な歴史ファンがその会場にて、「道標」を上演!



新たな出演者を揃えて彦根市民活動まつりにて第2回目の舞台



1、花しょうぶ通り商店街を中心とした地域に根ざし、引き継がれていくには、その地域の人たちが望むものやかたちや手段が良いと考え、話し合いを進める中で、歴史の伝承を甲冑劇またはきぐるみで演じて広めていくこととなった。

幸い、地元の佐和山に関し大変詳しい方にその脚本を依頼することができ、「石田三成と嶋左近の伝承～道標～」の甲冑劇編と「みつにゃんとさこにゃん～佐和山城～」きぐるみ編ができた。甲冑劇編は、ちょうど彦根市の「井伊直弼と開国150周年祭」とリンクして通常相容れるはずのない彦根のお殿様井伊直弼と石田三成のふたりにスポットを当てた脚本となった。まずは、甲冑劇編による伝承を行った。



11月23日「義の旗のもとに」の会場にて上演

2、甲冑劇による2回の発表の場は大好評であった。

演じる役者のオモ役は、花しょうぶ通り商店街の方や関わりのある20歳～60歳の方々に担っていただき、裏方のスタッフも花しょうぶ通り商店街の方や関わりのある方々30人ほどの協力を得ました。三世代交流の媒体になるという明確な結果は創れなかったが、老若男女が参加していただいたイベントでの発表ができた。



2月7日「ひこね市民活動ふれあいまつり2007」の会場にて上演



お世話になった「戦国丸」にて練習

3、一定の評価を得た甲冑劇による伝承もまだまだ改善し発展の余地がある。何よりもっと花しょうぶ通り商店街で根づかせねばならない。また、子ども向けである「みつにゃんとさこにゃん〜佐和山城〜」きぐるみによる発表の場はまだできておらず、現在、佐和山小学校へ協力を依頼中である。当面は、2つの脚本の内容が彦根市に広げられるよう活動を継続する。



1. 協力の在り方について。

[評価できる 100% ある程度評価できる 0% あまり評価できない 0%]

- ・大変熱心に定例会にもご参加いただき、連携もとれ、素晴らしい劇になったと思います。
- ・発見隊のみなさまの積極性が現れ、好感を得ました。
- ・商店街単体ではなく色々な団体との交流によりイベントが充実し宣伝効果がアップした。
- ・地域の歴史的なことを残す事は共同でできないのですが積極的に取り組んでいただいた。

2. みなさまの商店街にとって。

[プラスだった 84% あまり変わらない 16% マイナスだった 0%]

- ・イベントの会場が商店街から遠かったのでつながりがなかったように思う。
- ・参加して下さった方達に喜んでいただいたのが一番。商店街の認知度が高まった。
- ・また新しい協力者ができ、これからの活動が楽しみになりました。

3. 今後の活動について。

[一緒にやりたい 84% 条件が合えばやりたい 16% あまりやりたくない 0%]

- ・方向性の問題で一致することがあれば。
- ・今度はぜひ商店街内でやっていただきたいと思います。  
これからもよろしくお願い致します。
- ・戦国をテーマにした街づくりをしていく中で劇は今後も活用したい。

4. その他

- ・当日、再会劇の方も盛り上げていただきありがとうございました。活動の継続を望みます。
- ・ありがとうございました。小林さん最高！！（ハートマーク）
- ・発見隊の熱心な取り組みに感銘しました。

一定の評価をいただいた中でも、「方向性の一致」「イベント地」に関して貴重なご意見をいただきました。「商店街のみなさまとの方向性のすりあわせ」「商店街のみなさまへの貢献」というところをより大切にしていける必要を感じています。

今までの活動の様子と各隊員の感想



赤レンジャー 中尾

近江八幡～彦根～米原。JRにはお世話になりました。隊員みなさまに助けていただきなんとかここまで来ました。発見隊の第一歩『道標』が地域の財産となることを意図しています。



緑レンジャー 大橋

近江むかし発見隊は、個性的な6人の集まりで、この個々の個性が発揮されて「石田三成と島左近の伝承―道標」を披露できました。地域づくりは、まさにひとそれぞれの個性を、いかにまとめるのかであると、学びました。



黒レンジャー 迫間

私は近江むかし発見隊のブラックとして、地域との調整や資金調達など近江むかし発見隊のまさに黒子のように陰でチーム支える役目をしてきました。今後地域活動をする上で私にとって非常に良い経験をさせていただきました。



桃レンジャー 小林

アマチュア劇団で役者をしてきた経験がここで役立ちました。また、彦根の地域での素敵な熱い方々と出会えました。このつながりを今後も大切にしていきたいですね。



青レンジャー 森

はっきりとしたビジョンもないまま参加した近江むかし発見隊。1年の取り組みで卒熟後の進む道が見えてきました。2歩目を踏み出し自分の地元でも活動したい。



黄レンジャー 岩根

成り行きとはいえ、まさか、このトシで紋付袴にチョンマデ姿に刀差して舞台上上がるとは!! 素人芝居に“感動したぞ!” なーんて。こんな言葉をもらおうとはネエ〜・・・。



日時 2月7日(土) 10時30分~11時  
場所 ひこね市文化プラザ メッセホール

おうみ未来塾9期生

### 近江むかし発見隊

## 「石田三成と嶋左近の伝承」

### 道標

脚本 田附清子  
佐和山麓等交遊

照明 藤田大  
音響 中尾文男  
衣装 中尾文男

-1-



照明

音響

ナレ

直朝

「その昔、この彦根が、まだ彦根と呼ばれる以前のこと、石田三成という武将がこの地一帯を治めていました。天下人豊臣秀吉の五奉行のひとつ、そして側近中の側近。その頭腦と手腕を余すことなく、豊臣政権のために費やした若き武将・石田三成。

その三成の居城があったのがこの佐和山。後世の俗謡には「三成に過ぎたる城」とまで謳われたといいます。」

「そうだ。彼もまた今の私のようにこの佐和山で決断の時を迎えたのかもしれない」

（場面転換「佐和山城内」三成の書院にて三成と控える左近と相対する吉継と五助）

「時は通り、慶長5年水無月のとある日の徳川家康を大将とする会津の上杉討伐のため、敢賀を出陣した大谷吉継は、この佐和山城の三成のもとに立ち寄り、三成からその決意を知らされるのです。」

三成 吉継

「私は反対だ」  
「……」

照明

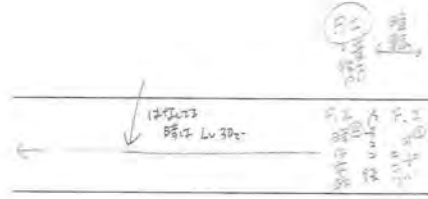
音響

### 登場人物

- 井伊直朝……… 法人 五藏生活 (役元 信孝)
- 石田三成……… 近江むかし発見隊 (池間 勇人)
- 大谷吉継……… 街の駅手作り甲冑講座受講生 (木下 夕果)
- 嶋 左近……… 花しようぶ通り商店街 (北村 忠雄)
- 湯浅五助……… 近江むかし発見隊 (大橋 正彦)
- 長野主膳……… 近江むかし発見隊 (岩根 秀雄)
- ナレーション……… 近江むかし発見隊 (小林 理恵)
- 足軽……… 近江むかし発見隊 (森 健一)
- (中尾 文男)

照明

音響



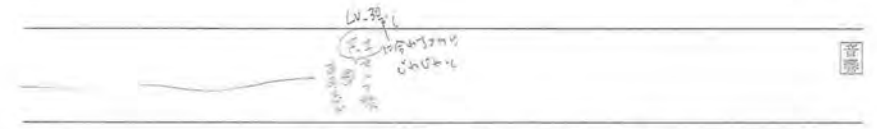
直朝

直朝(主膳)

「本場にこれぐらいのだからか、とつらつら松陰先生の命も奪ってしまっただけに、これほどの犠牲を払ってまでも私のしごとをこなしているなんて、本場だの園のたまたま正し(直朝)おののつぶやき」

「直朝、思い悩む、そして、ふと何かを思いつく」

-2-



吉継

左近

三成

吉継

吉継

「気持ちにはわかる、それが、おまえの太閤秀吉様に対する「義」だということも。しかし、あまりにも無謀すぎる、負けるぞわかっていながら、あの家康殿に向かって行くというのか、左近、あなたが傍についていながら、このようなことを……」

「はあ、わたくしはすでに腰に「身」をさげておられますよ」

「聞いてくれ、刑部。負けるを決めたわけではない、それにこれは単なる「義」だけではないのだ」

「では、何だ」

「……」

「あ、志だ、太閤様に使えて間もないころだった、ふたりして幾夜も夜通し語り合ったではないか、いつか、この園を獲のない平和公園にしよう……今、亡き太閤様が築かれたこの園の土台を磐石なものにする(三成)をが真に万民のためではないのか、そして、今こそ、我がが語りつくした志のために起ちあがる時ではないのか、なあ、刑部、さうは思ってくれぬか」

「しかし……」

-4-

-3-

説明

音階



左近 「会津の上杉様とも直江殿を通じて、手紙を渡しておきます。信濃の真田様へも、後は……」

吉雄 「さう、僕は、この寂だけどういふ(と)か」

三成 「刑部……いや、紀之介」

吉雄 「もう何も言わない、佐吉、いつでもどんな時でもお前は道標となり、我らの行く先を示してくれた」

三成 「共に起つてくれるか、紀之介」

吉雄 「さあ、たとえ、すべてを敵に回そうと、私はお前の志にのついて行かう。お前が道標となりこの國を平和な國へと導いて行くのであれば、私の、お、皆の者」

三成 (吉雄の手を取り)

五助 「……」(吉雄に向かい)

左近 「願わじやあ、出陣の準備をいたせ、いよいよ(國々原へ)」

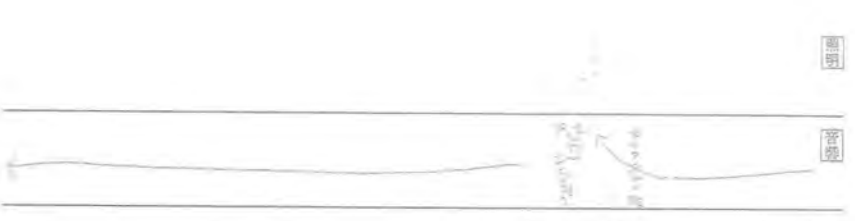
三成 (陣太鼓の音と共に「エイエイオー」の勝ち國を繰り返す……足輕走)

(自由橋城・清涼寺座禅堂の直綱と長野主膳)

主膳 「能、今、水戸藩(の)と」

説明

音階



直綱 (主膳、おの志は間違つてはおらぬな)

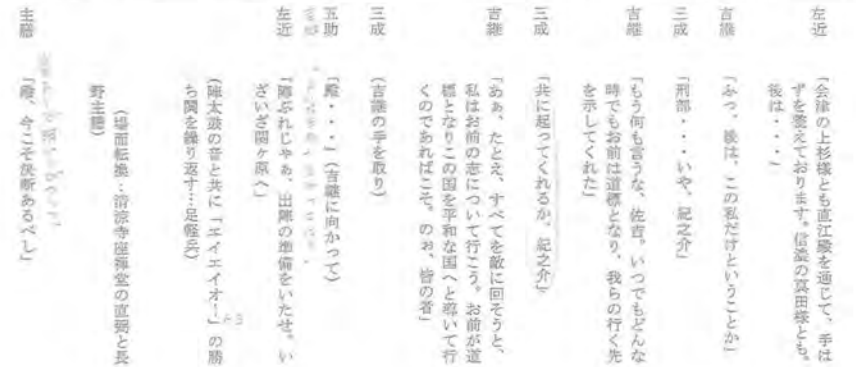
主膳 「はい、石田三成殿が真にこの日本の國を愛じて家康様という大きなうねりに向かつて決起されたように、殿も踏み出される時を迎えられてはいます。殿もまた、この國の國を願はず道標となるべきお方なのですから」

「井伊直綱が生まれるおおよそ20年前、豊臣秀吉ごとき、再び天下は乱れました。その亂世を納めようとして石田三成は、自らのすべてを賭して、徳川家康に挑みます。それが「天下分け目」と呼ばれる國々原の戦い、おすが半日で勝敗を決するものになったこの戦いに敗れた三成は、京の大桑河原で斬首の刑に、後々の世まで奸臣」と呼ばれ、三成の功績も認められず、ままた現代にまで伝えられてきました。大老井伊直綱もまた、自らの信じる志を進行し、開國に踏み切ります。しかしながら、その志のために吉田松陰・福本左内らの識者を(と)こく起刑した安政の大獄は、後々まで尾を引き、対立する尊皇攘夷派の水戸藩士らによつて、小倉藩、う3月、直綱は松田門外で暗殺された(と)つて」

石田三成40歳、井伊直綱45歳、まだまだこれからという時のあたりが200余年という時空を越へ、この同じ産根のこの佐和山麓で見たものは……

説明

音階



春までには返す筈のさき波と吹きつける佐和山おろしのこの風だけが、今も変わらず、ふたりの熱い思いを伝えてくれているのかもしれない。この國の民たちの平和を真に願つたふたりの思いを。

(勝者が語る歴史の中で正しく伝えられてこなかった地元の英雄・石田三成と井伊直綱。彼らの不名誉を雪ぐのは、同じ地元の私たちなのだと思います)

スタンプ

- 舞台総括……近江むかし発見隊 (森 俊一)
- 演出……近江むかし発見隊 (小林 理恵)
- 脚本……佐和山城研究会 (田附 清子)
- 音楽……近江むかし発見隊 (大橋 正彦)
- 撮影(ビデオ) 近江むかし発見隊 (岩橋 秀雄)

小道具

- 陣太鼓
- 床机
- 三成用/嶋用/大谷用/井伊用
- 扇
- 三成用/井伊用
- 衣配
- 大谷用

大道具

- 大屏風……あれば
- のぼり旗……各種

衣裳

提供……花しょうぶ通り商店街 井伊直綱/石田三成/大谷吉継/嶋 左近/湯浅五助/長野主膳/足輕



\*連絡先\* 「近江むかし発見隊」 近江学芸会9期生 小林理恵 090-9099-5425

## 伝承スポット

# 『島左近と石田三成の伝承』

～「しまさこにゃん」「いしだみつにゃん」の  
ファン倍増で街おこし in 花しょうぶ通り商店街～



## 対象地域の課題

彦根市花しょうぶ通り商店街は、地域で生み出したキャラクター「しまさこにゃん」「いしだみつにゃん」を押し出し、地域興し・地域活性化をはかろうとしている。両キャラクターは、関ヶ原の合戦の西軍の盟主石田三成と家老の島左近がもともになっており、今も根強いファンが数多くいる。また、有名な人物ではあるが伝承という部分では広がり欠けるようにも思われる。この活動で確かな史実に基づいた伝承の一つの在り方を示すことができれば幸いである。

石田三成と島左近は、熱心なファンも多いのだが、歴史上大きな役割を担った人物であるにも関わらず、主人公として取り上げられることに恵まれていない。その結果、その活躍を伝える機会も少ない。このままではますます埋もれていくおそれがある。幸い彦根には彼らの居城であった佐和山城跡、旧城下町鳥居本がある。

また、花しょうぶ通り商店街の方々は、この主従をキャラクター化した「しまさこにゃん」と「いしだみつにゃん」を創り、地域振興も兼ねて熱心に活動をされている。

ただ、人員・時間・企画力の面で不安があり十分な活動ができていない現状があり、地元の参加者が少ないのも課題である。それらの地域課題を解決することにより、地域興し・地域活性化、ひいては人と人とのつながり作りができるのではないかと考える。

## 実施日

平成20年11月23日(日) 11:00～  
地元と一緒にイベントを実施

## 内容

今は花しょうぶ通り商店街に住まいする「しまさこにゃん」と「いしだみつにゃん」が、名場面を懐かしみ語り合ったり、功績や遺構の紹介をします。また、地元住民による甲冑劇団等も劇に参加します。(10分～20分の脚本予定)

パターン **ア**

### 昔語り・名場面

昔語り(名場面)の場合は劇などで実施。

パターン **イ**

### 功績・今も残る遺構

功績・今も残る遺構の場合は写真・ビデオ等資料を見せて解説する。

※パターン(ア)(イ)案ともに多くの方々の協力(監修者・劇などの出演者・スタッフ・広報・脚本・取材協力など)が必要です。

一、佐和山城、鳥居本などの歴史と魅力を再発見する  
二、花しょうぶ通り商店街を中心に、地域のみなさん、各世代をつなぐ絆となる

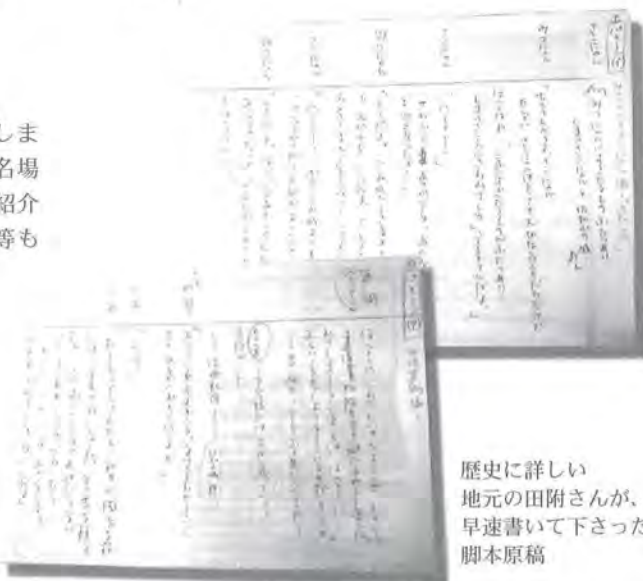


史実の伝承を「しまさこにゃん」と「いしだみつにゃん」に演じてもらいます

## 場所 対象

龍潭寺(彦根市古沢町1104)  
および、彦根市(花しょうぶ通り商店街を中心に)  
石田三成と島左近ゆかりの地

幼児・小学生と保護者のみなさん



歴史に詳しい地元の田附さんが、早速書いて下さった脚本原稿



活動PRチラシ

### 井伊直弼と開国150年祭



**脚本** 田附清子  
(佐和山城研究会)

**出演** 井伊直弼  
迫間 勇人 (近江むかし発見隊)

石田三成  
濱元 信孝 (NPO法人 五環生活)

大谷吉継  
木下 夕果 (街の駅手作り甲冑講座受講生)

嶋 左近  
北村 忠雄 (花しょうぶ通り商店街)

**湯浅五助**  
大橋 正彦 (近江むかし発見隊)

**長野主膳**  
岩根 秀雄 (近江むかし発見隊)

**語り部**  
小林 理恵 (近江むかし発見隊)

**足軽** (近江むかし発見隊)  
中尾 文男 / 森 俊一  
※要予約により、観覧が定員になることがあります。

無入料場

2009年  
**2月7日(土)**  
10:30~11:00

ひこね市文化プラザ メッセホール

同時開催  
**ひこね市民活動ふれあいまつり2009**



市民活動の紹介ブースや地産地消の飲食ブース、体験イベントなど、ほかにもイロイロ盛りだくさんのふれあいまつりは、10:00~17:00まで開催しています。

石田三成と嶋左近の伝承

# 道標



## 往時を語る先人たち…

直弼が苦悩の末、自分の信じる道を貫き開国を決意した裏にあつたであろう彦根の先人三成たちの活躍。その消えゆく歴史を次の世代に伝承したいと思ひ、この「道標」という名場面劇ができあがりまし。脚本執筆は、佐和山をこよなく愛する地元の方に。また、演じますは地元商店街の方々。名場面で振り返る甲冑劇をどうぞお楽しみください。

近江むかし発見隊とは、  
淡海ネットワークセンター主催おうみ未来塾9期生の研究グループ。消えゆく昔話や歴史の伝承をテーマに、現在彦根市「花しょうぶ通り商店街」にて活動中。



PHOTO/2008年11月23日「義の旗のもとに」イベントにて上演

主催 近江むかし発見隊 ☎077-532-6275 (中尾)  
問合せ E-mail: oumi\_mukasihakentai@yahoo.co.jp

「井伊直弼と開国150年祭」市民創造事業  
協力/ひこね市民活動ふれあいまつり2009実行委員会  
花しょうぶ通り商店街・LLPひこね街の駅  
彦根もりあげ隊

# しゃくなげ学校未来塾グループ 卒塾報告書



## しゃくなげ学校未来塾G 役割分担図



### しゃくなげ学校未来塾:メンバー10名

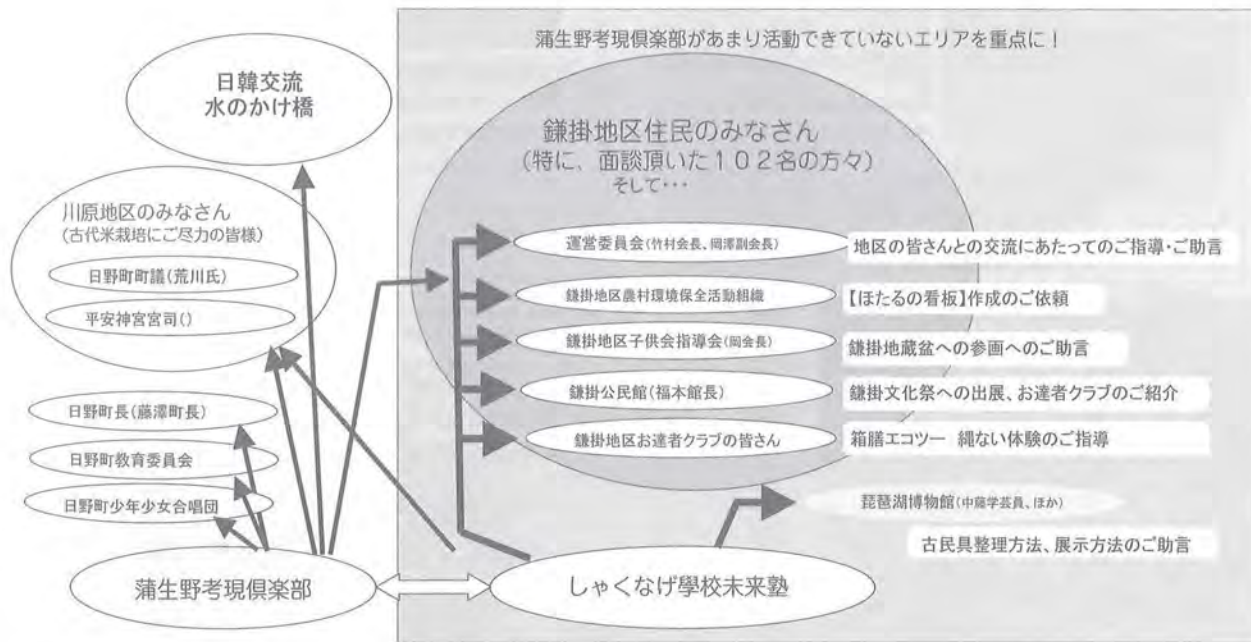
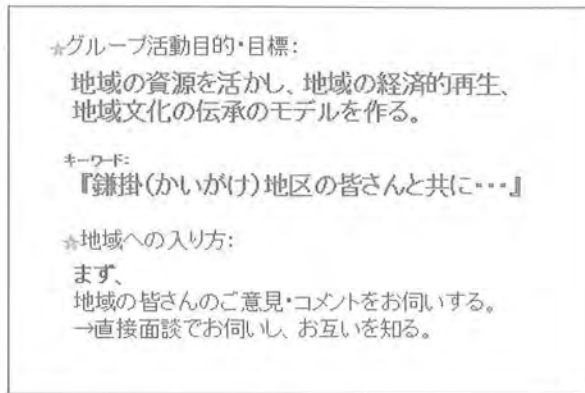
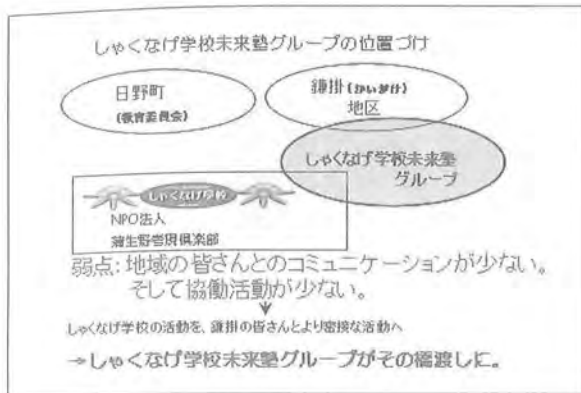
谷口 敦史、中野 哲也、井坂 尚司、岡 成美、杉原 秀樹、片山 慈敏、加藤 敏夫、久保田直子、山口 尚孝、吉田 英一郎

## しゃくなげ学校未来塾グループ

滋賀の中山間部の少子高齢化が大きな課題となっており、限界集落の出現さえ危惧されている。このことは、長年育まれてきた地域文化が次代に継承されなくなることを意味しており、お年寄りの記憶を再生し伝承するチャンスは、年齢から見てここ10年程しかない。

日野町鎌掛(かいがけ)地区も平成13年に小学校が廃校に追い込まれるような過疎地域である。廃校舎は現在NPOが運営しているが、地域住民と一体となった活動とはなっていない。NPO・行政・住民等が連携した地域再生が求められている。そういう状況の中、しゃくなげ学校未来塾として、地域の資源を活かし、地域の経済再生、地域文化の継承のモデルを作ることを目的として地域に入り、地域の方々と共に活動を展開することにより地域再生モデルの一步を踏み出す活動を行うことが出来ました。

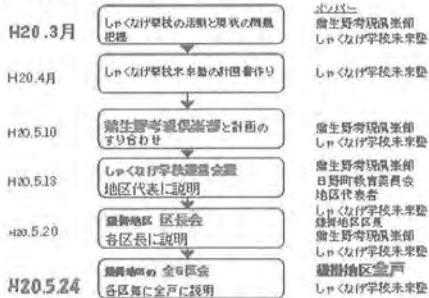
## グループ活動目標・地域とのネットワーク形成



しゃくなげ学校未来塾グループは地元、鎌掛(かいがけ)の皆さんとの人的ネットワーク構築に重点を置き活動しました。

# 鎌掛(かがけ)地区の皆さんとの面談・アンケート調査と結果

鎌掛の皆さんとのFace-to-Face交流開始までの歩み



→ “段階を踏んで” 地域に入る事が重要

聞き取り調査の様子



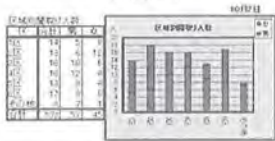
4.5のママさん達  
衛生野菊現職講師のメンバーと しゅくなげ学校未来塾のメンバーがチームを作り、皆さんのご意見を伺いました。



鎌掛地区の老人の集まりに参加させて頂いて。

鎌掛地区長(85歳)のお年寄りに、昔の鎌掛の様子を伺う。

## しゅくなげ学校聞き取り調査 (最終報告)



4ヶ月かけてあわせて102名の方々からお話を伺いました。

(一人20分～1時間かけて)

地域	件数
1区	10
2区	10
3区	10
4区	10
5区	10
6区	10



鎌掛1区から6区までできるだけ均等に聞き取り  
10代～90代まで幅広く聞き取りをするが、60代、70代の方が50%を占める

## 鎌掛地区の方々の声(まとめ)

- ・鎌掛小学校は思い出しても学校は残っていません。
- ・しゅくなげ学校が活動しているのは知っている。
- ・詳しい活動内容は知らない。
- ・しゅくなげ学校の活動の知らせがないので参加しようがない。
- ・地区の行事は公民館主体でやっているの、しゅくなげ学校の活動にあえて参加しようとは思わない。
- ・地蔵盆は地区の一大祭り、しゅくなげ学校が参加して盛り上げてもらうのは歓迎。
- ・寄贈した古民具がどうなっているか興味がある。
- ・しゅくなげ学校がいつも開いていると行き易いのに・・・などなど。

平成二十年五月十三日第一回発行

## 七年ぶりの同級会!

去る5月5日昭和28年(旧)鎌掛小学校卒業生来校(地元6名/県外者14名)同級会が開催されました。皆さん昔を懐かしんで精進を見学、校歌も合唱され、講演に聞き入りました。その後、しゅくなげ学校先生との懇談、色んな想いや今後の期待など意見が交わされました。

(左)鎌掛地区の卒業生(見学)



校長室での校談

女わら家履作りも体験してみたい! 欲求してください

実習場で記念撮影

こんな五年ぶりのスタッフ募集中!

★お知らせとお願い  
ご一緒に築い争考えて見ませんか  
地域のシボ北、た鎌掛小学校が  
地蔵になり7年になりましたが、この  
度しゅくなげ学校と、地域の皆さんが何  
か一緒に活動を目指したい、旧しゅく  
なげ学校についての考えをお聞かせ  
くださいとお願いいたします。

### ☆お伺したい事

- ・あなたにとって鎌掛小学校とは?
- ・旧鎌掛小学校は得た良かったと思えますか
- ・しゅくなげ学校の活動内容をご存知ですか
- ・地蔵がこうあったら良いなと思ふ事が有れば教えてください
- ・一緒に出来る(お手伝い出来る)活動があれば教えてください

鎌掛の皆様と一緒に地域のために良い活動を目指したいと思えます。是非ご協力下さい。



保存中の古民具



昔の箱籠

平成二十年十月六日

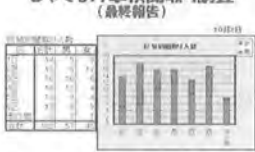
## しゅくなげ学校瓦版

しゅくなげ学校未来塾発行

### 「鎌掛地区の方々の声」

- ・鎌掛小学校は思い出しても学校は残っていません。
- ・しゅくなげ学校の活動しているのは知っている。
- ・詳しい活動内容は知らない。
- ・しゅくなげ学校の活動の知らせがないので参加しようがない。
- ・地区の行事は公民館主体でやっているの、しゅくなげ学校の活動にあえて参加しようとは思わない。
- ・寄贈した古民具がどうなっているか興味がある。
- ・しゅくなげ学校がいつも開いていると行き易いのに・・・などなど。

### しゅくなげ学校聞き取り調査 (最終報告)



地域	件数
1区	10
2区	10
3区	10
4区	10
5区	10
6区	10



### 今後の取り組み

- ① エコウィズム企画「箱籠

ヒアリング調査でも話題にもなっていました。箱籠を復活させ箱籠で食卓の体験する事で、エコウィズムに繋げるコースを計画。地元産杉材を使いCO2削減にも繋げ、地元農家民泊と、これから後半の課題と考えています。

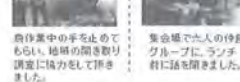


好天気の中で行われた校舎修繕

鎌掛(かがけ)地区聞き取り調査報告  
去る10月より、地元運営委員会、区長、衛生野菊現職講師、さまの協力により、全戸訪問を目標に、聞き取り調査を実施。鎌掛地区についての聞き取りは、今年5月まで一応の区切りをつけ、今回の5月まで調査結果を地域の皆さんに報告させていただきます。今後、鎌掛地区の方々の意見や要望を聞き取り、地域活性化に繋げたいと考えています。



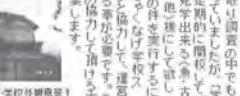
地域の子どもたちにも聞いてみました



会場で熱心に話を聞かせて頂きました



会場で6人の仲見しグループに、ランチ会話を聞きました



旧鎌掛小学校の運営、しゅくなげ学校活動参加

### 今後の取り組み

① 古民具の目録作り  
地元の方々から寄せられた貴重な古民具を、管理する為の目録を作成し、皆さんに届ける目的で目録作りをする作業にも取り組んでいます。

### スタッフ募集

旧鎌掛小学校の運営、しゅくなげ学校活動参加

## 地域の人々と一緒に活動の例

### ～蛍の看板作成・川べりに設置～ ～地蔵盆祭りの様子～

#### ☆地域の人々と一緒に活動：

- ①「ほたるの一生」看板作り 地区水環境部会と共に  
→看板を作成し、川べりに仮設置
- ②地蔵盆“てかりの文化” 子ども会青森会と共に  
→8月23日実施。
- ③古民具の展示 地区のおじいちゃん、おばあちゃんが台を貸して・・・  
→8月23日実施。
- ④鐘掛文化祭に初参加 地区の皆さんにしゃくなげ学校未来塾の活躍を紹介。  
→11月2、3日展示。
- ⑤箱詰モニターエコーツアー  
日野菜など日野地区特産食材を使用して、  
古民具の紹介・縄なりの体験ともちつき体験も。  
→1月31日実施。

これらの活動を**再現**にして皆さんにお知らせ。

#### ①「ほたるの一生」看板づくり 鐘掛地区水環境部会から協力依頼。

しゃくなげ学校未来塾メンバー全員で準備し、近くの小川に設置。水環境の保全をアピール。



鐘掛地区農村環境保全活動協議会  
猪生野青森会 しゃくなげ学校 未来塾



看板に貼ったポストカード（メンバーのお手紙が下段を埋めてくれました！）



鐘掛地区農村環境保全活動協議会  
猪生野青森会 しゃくなげ学校未来塾  
三者の協働作業による  
改善活動  
の一側となりました。

#### ②しゃくなげ学校-地蔵盆祭りへの取り組み

・まず子供会指導会の皆さんと話し合い  
（今までコミュニケーションはなかった。）  
“子供たち全員にスタンプラリー参加を提案”



↓  
“町地区の子供たちは自分の居場所の犬を守る仕事があり、スタンプラリーには**参加できない！**”  
（この話合いで初めて知りました。）

↓  
各区の子供たちの人数を把握。事前に団扇と子チミ焼きを準備し配る。  
（各地蔵盆会場に、メンバーが分担して入り込む）

事前準備がうまくできた！

↓  
その他の子供、大人、日韓交流の子供たちにスタンプラリーと子チミ焼きを渡してもらい、地区内の交流を深める。

→地区の皆さんと**事前のコミュニケーション**が重要！

#### ② H20年8月23日 地蔵盆の様子



スタンプラリーに使う団扇  
（メンバーの撮影した子供のお手紙を貼って。）



地蔵盆を合はせる鐘を鳴らしながら覆りかく子猫たち。



メンバー全員で準備した  
ちぢみ焼き  
（スタンプラリー参加者  
さんに配る）



#### ② H20年8月23日 地蔵盆の様子



地区内8ヶ所の地蔵盆が同時に幻想的な光のプロムナード

スタンプラリーでは260本の団扇と300枚以上の子チミ焼きが皆さんの手元、口元に。

（今年の**約2倍**の人達が参加されました！）

→【地域の活性化に一役】！



## 地域の人々と一緒に活動 ～箱膳エコツアーリズム～

「CO2ダイエットコンテストinおらみ」を利用し、箱膳体験。  
(後援 県地球温暖化防止活動推進センター主催)

### ⑤ 箱膳エコツアーリズム

- ・ヒアリング(100人以上)の結果に基づき
- ・地元スギ材などを使った箱膳などを製作。(←CO2削減へ)
- ・箱膳食体験(地産地消 食材を使い)
- ・古民具の紹介と陶氣い わらし作り体験(地元のお遊者クラブの皆様のご指導を受け)
- ・エコツアーリズムに繋げる。

↓  
 1月31日、モニターツアーを実施



まず、箱膳の歴史、使われ方、エコツアーリズムへのつながり等を勉強



箱膳を使って、食育体験(地産地消の食材を用いて)

一汁一菜。

食事の後お茶で食器を洗ひ、水を節約。

又食器類を大切に使用し、コンバケトにしまふ。

→エコツアーリズム



網ない、わらし作り体験

米を採った後の藁で農具を作り、残った藁くずは堆肥にして田んぼへ。

→究極のエコツアーリズム



遊里のお遊者クラブのご婦人方6人が先生となって、参加者と1対1で網ない、わらし作りを体験しました。

皆さん、和気調々で楽しく体験。



わらし網工体験(わらし作り)を【1対1】で熱心にご指導頂いた、遊里地区のご婦人方(6人)

巻込に、餅つき体験も



# しゃくなげ学校で、「箱膳」モニターツアーを実施しました 1月31日(土)

私達しゃくなげ学校活動グループは、日野町・鎌掛(旧鎌掛小学校)をフィールドにし、鎌掛の皆様と一緒に、地域の為より良い活動を目指すという目的で色々活動してきました。

今回「地産地消、エコな暮らし」再発見」と題して箱膳で食事体験モニターツアーを企画し、去る1月31日(土)に行いました。箱膳をお持ちの方を地元のヒヤリング調査でお聞きしましたが、「今は持っていない」との答えが殆んどでしたので、しゃくなげ学校の古民具の中にある唯一の箱膳サンプルを基に、木工メーカーに製作を依頼しました。

12月中旬に滋賀の杉材を使用した白木の箱膳が出来上り、塗装(二度塗り)はしゃくなげ学校活動メンバーが行いました。

食材も自然にこだわった内容でエコツーリズムに繋げる事を目的に実施致しました。

地域のご婦人方にも参加いただき、地域の皆様との協同活動が出来た事もよい体験となりました。

私達もこれを機会に、先人のエコな生活ぶりを少しでも会得し、又、鎌掛地区の皆様さんとの協働活動で後世に伝えてゆければ幸いです。



事前のリハーサル(1月24日)には  
滋賀報知新聞の取材も受けました。

- 行程は下記のように行いました。
- ①10:00~11:20 エコ暮らし講座
  - ②11:30~12:00 古民具見学
  - ③12:00~13:00 箱膳体験
  - ④13:00~15:30 縄ない体験
  - ⑤15:30~16:00 餅つき体験



**箱膳レシピ:**  
ご飯:伊勢産米+五穀米  
お茶:ごっちゃん  
汁類:野菜ベースの味噌汁  
おしんこ:日野菜漬

いづれも地産地消をめざし、  
地元産の食材をふんだんに  
使って、準備しました。

## 参加者の方からのコメント(アンケート結果)

- 1)箱膳ツアーに参加して感じたこと、良かったこと。  
箱膳の歴史背景が分かった。  
物や水を大切にすること(もったいない)体験ができた。  
普段出来ないことが体験できた。  
昔を思い出した。
- 2)箱膳ツアーに参加して良くなかったこと改善点など  
内容が多すぎた。  
新しい料理法、盛り付け術があればよかった。  
送迎問題、開催時期の工夫。  
子供達に貴重な体験をさせる。  
参加者が少なかった。  
季節を出す食材があれば...
- 3)箱膳の食事内容は如何でしたか(量・内容など)。  
ご飯・おかず美味しかった(ほとんどの方)。  
地産地消が良かった。
- 4)その他の催事で気が付いたこと  
子供や若い人の参加が欲しい。  
PTA・地域のグループ、研修旅行等にPRしては。  
おばあちゃんの指導で、草細工は良かった。  
時間が足りなかった。(草履が片方しか出来なかった)(ほとんどの方)。  
古民具を利用した体験をさせては..  
古民具が懐かしかった。  
食べ物を残さないよう指示、指導をしては..

参加者(含、地元草細工講師)12名  
しゃくなげ学校活動メンバー 10名 合計22名



①エコ暮らし講座風景  
(旧校長室にて)



③昔の箱膳の再現  
旧校長室を使い、参加者全員で箱膳  
を囲み、食事体験をしました。



⑤餅つき体験  
も行いました



手わら紙体験(ぞうり作り)  
5人の地元のご婦人方に指導  
していただきました。  
皆さん、熱心にご指導くださいました。

## 鎌掛地区全戸の皆様へ

『箱膳モニターツアー』  
の結果を瓦版にしてお知らせ  
しました。

また、遊人里グループの  
南村さんに参加いただき、  
その参加レポートをプロ  
グに掲載いただきました。

## “あまのじゃく”ブログに掲載された南村さんのレポート

(3回に分けて詳細に掲載いただきました、ありがとうございます。)

「箱膳」って何ですか？ 昔の食事のスタイルから  
来て、30cm四方の木の箱の中に、お茶や味噌汁  
とご飯を盛ります。お茶はごっちゃん、味噌汁は  
野菜ベースで、おしんこは日野菜漬。おしんこは  
お漬物の一種です。お漬物の一種は漬物です。

さて、はてさてこの箱膳って何ですか？  
これは、昔の食事のスタイルから来て、  
30cm四方の木の箱の中に、お茶や味噌汁  
とご飯を盛ります。お茶はごっちゃん、味噌汁は  
野菜ベースで、おしんこは日野菜漬。おしんこは  
お漬物の一種です。お漬物の一種は漬物です。

「箱膳」って何ですか？ 昔の食事のスタイルから  
来て、30cm四方の木の箱の中に、お茶や味噌汁  
とご飯を盛ります。お茶はごっちゃん、味噌汁は  
野菜ベースで、おしんこは日野菜漬。おしんこは  
お漬物の一種です。お漬物の一種は漬物です。

さて、はてさてこの箱膳って何ですか？  
これは、昔の食事のスタイルから来て、  
30cm四方の木の箱の中に、お茶や味噌汁  
とご飯を盛ります。お茶はごっちゃん、味噌汁は  
野菜ベースで、おしんこは日野菜漬。おしんこは  
お漬物の一種です。お漬物の一種は漬物です。

# しゃくなげ学校瓦版

発行:  
しゃくなげ学校  
発行責任者  
山口由香

## “地域に入る”活動の評価

- ・顔と顔のつながりができました。(道ですれ違ってもお互いにご挨拶が可能に。)
- ・地域の核組織とのつながりができました。
- ・“しゃくなげ学校瓦版”を通して地域の方々に関心を持って頂きました。

- ・日韓交流からもお礼のメッセージ。

蒲生野考現倶楽部が、韓国京畿道城南市の「益唐環境市民の集い」と交流をして5年目になり、今年も「水のかげ橋 日韓子ども交流」を行いました。

子どもたちは、しゃくなげ学校未来塾の方から各区でスタンプを押してもらったウチワを持って、しゃくなげ学校で頂いたチヂミをおいしく頂きました。

日韓交流の最終日として、里山の光の文化を楽しみ、日本の文化に触れた地蔵盆でした。

地域の皆さん、未来塾の皆さん、良い思い出をありがとうございました。

結果→○

## まとめと反省、そしてこれから

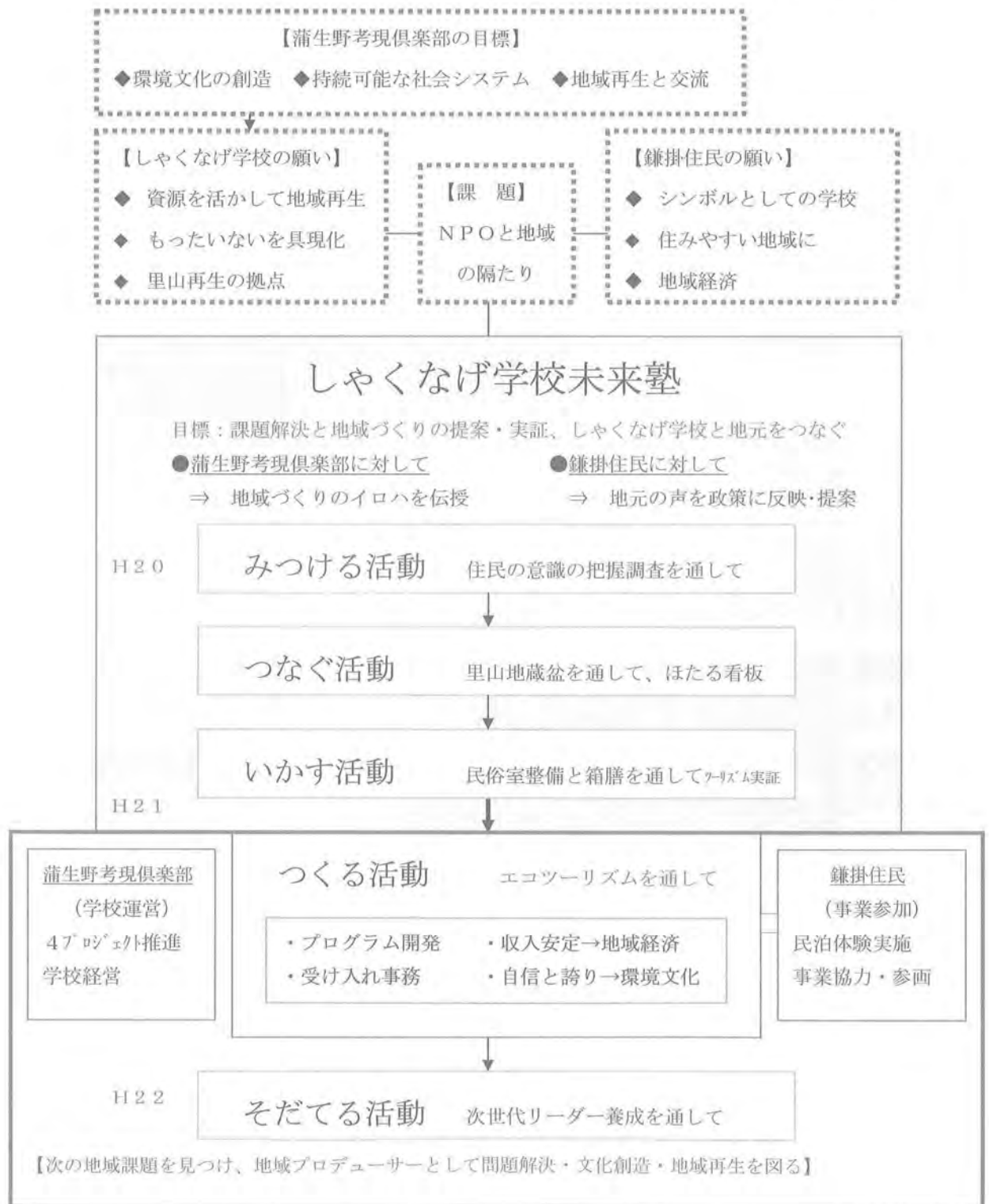
- ・鎌掛地区の皆さんに“しゃくなげ学校未来塾”を知ってもらえました。(面談、瓦版を通じて)
- ・地区の皆さんと“しゃくなげ学校”との繋ぎの役目が出来ました。
- ・エコツーリズムへの展開の基礎ができました。  
(今後の蒲生野考現倶楽部の定期行事への組み入れの基礎ができました。)
- ・今後の「しゃくなげ学校未来塾グループ」と「蒲生野考現倶楽部」との活動についての検討が必要。

例えば、毎年之地蔵盆に同窓会を兼ねて、このグループが主催?!  
エコツーリズムの発展的展開を計画・実施・・・

# 「しゃくなげ学校未来塾」活動のフローチャート

## H20年の未来塾塾生活動の流れと、H21/H22年へ向けて蒲生野考現倶楽部の活動に繋ぐ。

■■■ 地域プロデューサーが目指すもの ■■■



# しゃくなげ学校未来塾グループ活動の記録 (H20.3~H21.3)

- 一年間で76回の会合。延べ参加人数450名。  
週1回以上の会合、活動。一回当たり参加率59%

- ☆メンバー全員の意思疎通を大事に!
- ☆NPO蒲生野考現倶楽部の皆さんとの意思疎通。
- ☆地域に繰り返し入り、地域の皆さんと顔見知り。
- ☆コミュニケーションツールとして『しゃくなげ学校瓦版』を活用、その打ち合わせ。(今までの蒲生野考現倶楽部の活動には無かった試み)

しゃくなげ学校未来塾					しゃくなげ学校未来塾 会議・行事と参加記録					(注) ☆印は蒲生野考現倶楽部主催の行事			
会合日数	延べ参加回数	期日	曜日	時間	会合日数	延べ参加回数	期日	曜日	時間	場所	主な内容	参加人数	コメント
1	1	03/15/08	土	13:00~17:00	28'	39	08/23/08	土	13:00~17:00	しゃくなげ学校	地蔵盆準備およびコーディネート	9	古民具展示
2	2	03/29/08	土	13:00~17:00	28''	40	08/23/08	土	19:00~22:00	鎌掛地区	☆地蔵盆ほかに(未来塾主催)	9	メンバー各区域へ、テヂミ焼き
3	3	04/08/08	火	19:00~21:00	29	41	08/30/08	土	9:30~12:00	しゃくなげ学校	各戸訪問⑧	4	各戸聞き取り調査
4	4	04/19/08	土	13:00~17:00	29'	42	08/30/08	土	13:00~17:00	しゃくなげ学校	地蔵盆反省会・中間発表の準備	4	地蔵盆反省会・看板完成
5	5	04/22/08	火	19:00~21:00	30	43	09/06/08	土	14:00~17:00	米原公民館	未来塾9期生 塾生会	5	中間発表の準備
6	6	04/26/08	土	13:00~17:00	31	44	09/13/08	土	9:30~12:00	しゃくなげ学校	各戸訪問⑨	6	各戸聞き取り調査
7	7	05/05/08	月	10:00~12:00	31'	45	09/13/08	土	13:00~17:00	しゃくなげ学校	中間発表の準備・今後の計画	8	中間発表の準備・今後の計画
8	8	05/10/08	土	13:30~17:00	32	46	09/17/08	水	19:00~21:00	アルプラザ	中間発表の準備・確認	4	谷口さん発表内容を確認
9	9	05/13/08	火	19:30~21:00	33	47	09/20/08	土	9:30~12:00	しゃくなげ学校	各戸訪問⑩	3	各戸聞き取り調査
10	10	05/17/08	土	10:00~12:00	33'	48	09/20/08	土	13:00~17:00	しゃくなげ学校	竹村運営会長・岡澤副会長と話し合い	4	次期イベントの計画
10'	11	05/17/08	土	13:00~17:00	34	49	09/23/08	火	10:00~16:30	ピアザ淡海207号	未来塾9期生 中間発表会	9	
11	12	05/20/08	火	19:00~21:00	35	50	09/27/08	土	9:30~12:00	しゃくなげ学校	各戸訪問⑪	4	各戸聞き取り調査
12	13	05/24/08	土	19:00~21:00	35'	51	09/27/08	土	13:00~17:00	しゃくなげ学校	聞き取り調査まとめ、次期計画	4	次期イベントの計画
13	14	06/07/08	土	9:30~12:00	36	52	10/04/08	土	9:00~12:00	日野町川原地区	☆収穫祭	6	平安神宮司祭が主宰
13'	15	06/07/08	土	13:00~17:00	37	53	10/07/08	火	19:00~21:00	草津町づくりセンター	聞き取り調査まとめ、瓦版準備	6	次期イベントの計画検討も
14	16	06/10/08	火	18:30~21:00	38	54	10/13/08	月	13:30~17:00	しゃくなげ学校	瓦版を竹村会長・岡澤副会長と確認	4	瓦版配付OKを確認
15	17	06/14/08	土	9:30~12:00	39	55	10/21/08	火	19:00~21:00	草津町づくりセンター	次期イベントの計画詳細検討	8	谷口さん研修報告あり
15'	18	06/14/08	土	13:00~17:00	40	56	10/25/08	土	9:30~12:00	しゃくなげ学校	古民具目録作り	6	
15''	19	06/14/08	土	18:30~21:00	41	57	11/01/08	土	9:30~12:00	しゃくなげ学校	古民具目録作り、パネル搬入	8	
16	20	06/15/08	日	14:30~			11/02/08	日	9:00~	鎌掛公民館	鎌掛地区文化祭		パネル展示
17	21	06/21/08	土	9:30~12:00			11/03/08	月	16:00~	鎌掛公民館	鎌掛地区文化祭	2	終了後、パネル搬出
17'	22	06/21/08	土	13:00~17:00	42	58	11/15/08	土	9:30~15:00	しゃくなげ学校	蜜の看板設置、古民具目録作り	7	箱膳サンプル確認
18	23	06/28/08	土	9:30~12:00	43	59	11/18/08	火	19:00~21:00	草津町づくりセンター	次期イベントの計画詳細検討	7	井阪さんより案提示
18'	24	06/28/08	土	13:00~17:00	44	60	11/23/08	日	9:00~	しゃくなげ学校	☆水のかけ橋交流会	2	
19	25	07/05/08	土	9:30~12:00	45	61	11/29/08	土	9:30~15:00	しゃくなげ学校	古民具目録作り(#121-#198)	4	次期イベントの計画詳細検討
19'	26	07/05/08	土	13:00~17:00			12/06/08	土	8:30より一日	日野町役場	☆伊勢神宮参拝	3	平安神宮司さんと共に
20	27	07/09/08	水	9:30~15:00	46	62	12/13/08	土	9:30~12:00	しゃくなげ学校	次期イベントの計画詳細検討	3	次期イベントの計画詳細検討
21	28	07/12/08	土	9:30~12:00	47	63	12/16/08	火	19:00~21:00	草津町づくりセンター	次期イベントの計画詳細検討	7	
21'	29	07/12/08	土	13:00~17:00	48	64	12/20/08	土	11:00~夜	ピアザ淡海	セミナー&交流会(夜)	5	11:00に集合し、事前会議
22	30	07/19/08	土	9:30~12:00	49	65	12/25/08	木	9:30~12:00	しゃくなげ学校	箱膳の塗装	8	まずは塗り方勉強と試し塗り
22'	31	07/19/08	土	15:00~17:00	50	66	01/08/09	木	9:30~12:00	しゃくなげ学校	箱膳の塗装	5	計41膳、1次塗り完了
		07/20/08	日	9:00~	51	67	01/10/09	土	9:30~12:00	しゃくなげ学校	箱膳の塗装、他準備作業	6	まず41膳の2度塗り実施
23	32	07/26/08	土	9:30~12:00	52	68	01/17/09	土	11:00~16:30	栗東さきさきホール	おうみ未来塾大交流会	7	瓦版のパネル展示予定(井阪さん)
24	33	07/30/08	水	19:30~22:00	53	69	01/24/09	土	9:30~16:00	しゃくなげ学校	箱膳&エコツウ準備	7	試食、重組工実習
		08/02/08	土	9:00~	54	70	01/25/09	日	9:30~12:00	ピアザ淡海301号	9期生塾生会 役割分担、等	4	成果発表会/卒塾式に向けて
25	34	08/03/08	日	13:30~17:00	55	71	01/31/09	土	9:00~16:00	しゃくなげ学校	箱膳&エコツウ(ステップ1)	7	本番。7名参加&地区から6名
26	35	08/09/08	土	9:30~12:00	56	72	02/06/09	金	19:30~21:00	しゃくなげ学校	しゃくなげ学校運営会議	4	町教育委員会、区運営会他
26'	36	08/09/08	土	13:00~17:00	57	73	02/07/09	土	9:30~15:00	しゃくなげ学校	箱膳塗り&アンケート集計	6	瓦版、卒塾報告書の検討も
		08/10/08	日	9:00~	58	74	02/14/09	土	9:30~14:00	しゃくなげ学校	箱膳塗り(2度目)	6	瓦版、卒塾報告書の確認も
27	37	08/16/08	土	13:00~16:00	59	75	02/28/09	土	9:30~12:00	しゃくなげ学校	箱膳整理・ほたるの看板設置	6	古民具目録作りをどうするか検討も
28	38	08/23/08	土	9:30~12:00	60	76	03/07/09	土	10:00~16:30	ピアザ淡海	成果発表会/卒塾式	9	10時集合、打ち合わせとハーサル

# 25

## の仲間

YES,  
WE  
CAN,  
miraijyuku



# 1

い さ か      な お し  
井 阪      尚 司



日韓交流～琵琶湖にて～

## しゃくなげ学校未来塾グループ

### プロフィール

滋賀県日野町在住。教員の傍ら、NPO活動（蒲生野考現倶楽部）をして20年になります。1990年から、生活者の視点から蒲生野の水と生活文化の調査を行い、子ども達と大人・専門家が一緒になって「ソレイケみぞっこ探検隊～たんけん・はっけん・ほっとけん～」の活動をしてきました。この活動は、「かいどり大作戦」（水辺の遊びと川調査）、50年前の地域の風景や暮らしを古老から聞き、当時の様子を絵屏風にする「ふるさと絵図」づくり、里山再生事業、モニタリング環境調査、韓国八堂湖と日本琵琶湖を探查する「水のかけ橋日韓交流」などへと広がってきました。NPOでは、事業の企画・推進をする「総合プロデューサー」として活動しています。

### 2年間で 学んだこと

地域で活動しているNPOに多くのことを学びました。活動の原動力となっているのは、「夢」と「情熱」。そして、「達成感」とやればできるという「自信」、一緒に取り組む「仲間」がいるということが継続の力になっていると思いました。

この5つの要素を、見事に具現化したのが「しゃくなげ学校未来塾」でした。メンバー10人が、地域づくりのイロハに則って蒲生野考現倶楽部と鎌掛地域を、活動を通して繋ごうとしたからです。イロハとは、地域課題や地域の思い等を「見つける活動」、しゃくなげ学校と地域を「つなぐ活動」、地域資源を「いかす活動」です。これらの積み上げは、今後、エコツーリズムに組み立てる「つくる活動」、次世代リーダーを育成する「そだてる活動」へと発展していきます。また、箱膳はこのグループの大きな財産となりました。

短期間に充実した活動ができたのは、5つに加えて、組織としての「情報の共有」と「報連相」による意志疎通ができていて、メンバーが進捗状況と活動のイメージが持てやすかったからだと思います。組織マネジメントと次への展望を示してくれた仲間へ感謝です。

### これからの 取り組み

地域プロデューサーとしての私自身の活動の見通しと立ち位置を考えなければなりません。方向として3つあります。①所属する蒲生野考現倶楽部の充実発展（やることが多いので）。②今までの経験やノウハウを活かして市民活動のネットワークを作る。③新しい地域課題を見つけ、地域プロデューサーとして問題解決・文化創造・地域再生を行う。

まずは、しゃくなげ学校未来塾で育てていただいた事業を発展させて、「つくる活動」と「そだてる活動」を具現化します。制作した100個の箱膳と民俗室や地域資源の活用をベースに、地域エコミュージアムづくりを進め、エコツーリズムの拠点にしたいと思っています。そして、昨年立ち上げた地域の『エコツーリズム協会しが』と今参画している日野町や東近江市の農家民泊の協議会とも連携して、新しい地域づくりを展開したいと思っています。

# 2

いわね ひでお  
岩根 秀雄



## 近江むかし発見隊

### プロフィール

9期生では、一番北に位置します長浜市の農村に住んでいます。すぐそばを一級河川姉川が流れ、東方には伊吹山がそびえいつも温かく包み込んでくれています。我が家から見る真っ白に雪景色した伊吹山の姿が最高です。

わたしは、長浜市に奉職しながら農家でもあるため田畑を守りつつ自家用のお米や野菜をつくっている農業者でもあります。また、暇を見つけては将棋を指したり魚釣りに行ったりしています。

毎年、自治会関係の役員以外に農業関係の役員をしなければならないため3～6団体の役員をしています。町内の役員は、しがらみがあるうえ、いわばあてがわれた役のため消化するだけで精一杯です。何か積極的に関われるテーマを見出せないかと入塾しました。

### 2年間で 学んだこと

1年目では県内各地で研修をさせていただき、様々な市民活動に多くのひとがいろんな形で関わっておられることを知りました。そして、ちょっぴりですが知り合いにもなりました。何よりも9期生の方と知り合えたことが大変うれしく思っています。

2年目のグループ活動は、当初どうなることと思っておりましたが、人が集まれば智慧もでるしそれぞれのネットワークでつながりができてきて、いろんな方との出会いと協力のもと、ひとつの形にすることができました。

「よそ者」がその“地域”に入るということは、むずかしいと思っておりましたが、わたしたちの入った“地域”である花しょうぶ通り商店街の役員の方々は、「よそ者」をすんなり受け入れていただきました。また、わたしたちの意見にはいつも耳を傾けていただき何かとご協力をいただき本当に感謝しております。

### これからの 取り組み

地域活動は、自分が住んでいる地域で行うのが一番と思っています。しかし、自治会という狭い範囲ではしがらみなどが積極的に関われるテーマがむずかしいと思っており、やはり長浜または湖北という地域で活動したいと思っています。残念ながら、これだ！というものは見つかっていませんが、この2年間の未来塾でのつながりを大事にしていきたいと思っています。

# 3

おおはし まさひこ  
大橋 正彦



## 近江むかし発見隊

### プロフィール

都会でもなく、田舎でもない街、この中途半端がとてこちよい米原に生まれ育ち、62年の土喰人です。

土喰人とは、できる限り土と共に生活したい気持からでたフレーズです。

### 2年間で 学んだこと

近江むかし発見隊は、たいへん個性的な6人の集まりで、この個性が発揮されて、「石田三成と嶋左近の伝承―道標」を披露できました。

地域づくりは、ひとそれぞれの個性をいかにまとめるかであると、学びました。

### これからの 取り組み

この生まれたばかりの甲冑劇ですが、今後の上演予定もいただいております、演出、キャスト、脚本に工夫をこらし、活動の幅をひろめていくつもりです。

これが、地域とのつながり、活性化への一歩になります。

# 4

おか なるみ  
岡 成美



## しゃくなげ学校未来塾グループ

### プロフィール

滋賀県蒲生郡日野町在住。結婚して十数年がたち、ぼちぼち広がってきた地域の人のつながりと、青年団活動を通じて目覚めた社会活動を活かすべく、現在は女性会や男女共同参画などに地道ながら携わっています。

今住んでいる地域は、少子高齢化が進み、特に子どもさんの数の減少には危機感を持っていて、なんとかしたいという思いを持っています。

幸い、よりよい地域になるようにとの思いで動きが出始めてきたので、私にできることでのかかわりを持っていきたいと思っています。また、子どもの育ちにも関心があり、心豊かに育つようにとの思いから、活動もしています。

### 2年間で 学んだこと

滋賀県にはあちこちでいろんな活動をされている方々がたくさんおられるのだということ、まず感じました。行く先々では、「心地よさ」があり、これが長続きの秘訣なのではないかと感じました。

しゃくなげ学校未来塾では、「風の人」が地域に入っていく難しさと、入れたときの喜びを学びました。そして、「しゃくなげ学校未来塾」としてご一緒に活動させてもらった仲間（偉そうにすみません）の方々に出会えたことは、貴重なことでした。

また、未来塾の活動以外にも色んな事を知ることができたと思っています。これらのことを活かしながら、足元での活動を始めたいと思いました。

### これからの 取り組み

地味なんだけど、とてもおいしくて珍しい地場料理「十八番の料理」の掘り起こしと、それを後世につなげていく作業をしたいと思います。

「環境と福祉がキーワード」と伺ったしゃくなげ学校（蒲生野考現倶楽部）では、今すぐにというわけにはいきませんが、福祉という面から、特に小中学生に対するお手伝いがしたいと思っています。また、しゃくなげ学校未来塾を通して、今日までつながった人やそのきっかけとなった事業は、立ち上げたときの思いを忘れずに大切にしていきたいと思っています。

# 5

おかだ けいこ  
岡田 啓子

nukunukuグループ

みんなの居場所「うちの縁側」  
拠点づくりとネットワーク化をめざして



## プロフィール

守山市生まれ。湖西市菩提寺から卒塾後、職場の所在地である、近江八幡市へ転居。

3年前、ホテルの管理職から、公募により商工会議所の専務理事に就任。

「渦中の栗」を拾ったと話題に。現在も波紋を投げつつ、奮闘中。

中学生の頃から、地域のジュニアリーダーや青年団活動に取り組む。

「少年よ大志を抱け、少女よ大志を抱け」の信念をもち、「いつか〇〇に」の夢を抱いている。

## 2年間で

### 学んだこと

「人はひとに支えられ、生かされている」ということ。

地域に入るといふことの難しさを知ったこと（地域の課題は地域のひとたちと共に、解決することが大切だということ）

家庭の事情や仲間の病気等で、思うように活動できない2年目でした。学生時代より自分の好きなことを優先させ、リーダーとして突っ走ってきた私にとって、戸惑いの1年でした。しかし、「ゆっくりでもいいんじゃない」と言う仲間の言葉・支えに、少し肩の荷がおりました。そんなnukunukuのメンバー、9期生の仲間、一緒に活動できた7期生の土田さん、成果報告書の編集に協力して下さった同じく7期生の藤田さん等、多くの方々との出会いとつながりに感謝しています。

## 今後の課題

nukunukuは名前の由来のとおり、あったかい、ほっこりした場づくり・ゆるやかなネットワークをめざしてきました。

志、半ばで卒塾しますが、みんなの居場所「うちの縁側」は、「暮らし・支え合い」を基本とし、永遠のテーマ・人生のテーマでもあります。平成21年度以降も、みんなの居場所「うちの縁側」近江八幡は継続していきます。地域の運営ボランティアさんと相談しながら、ムリなく、進化できるようにしたいと考えています。

ぜひ近江八幡にお越しの際は（毎週日曜日）、新町（近江八幡資料館となり）のさろん「間」へお立ち寄り下さい。

# 6

かたやま しげとし  
片山 慈敏



## しゃくなげ学校未来塾グループ

### プロフィール

滋賀県と三重県の県境、JR草津線沿線で油日駅と柘植駅のほぼまん中、遠望すれば鈴鹿山脈の南端「油日岳」の山裾でのんびりとした山里に見えるが、自宅前を県道4号線が通り、騒音と振動に悩まされている。ここ甲賀市甲賀町油日に在住60有余年、この地は少子・高齢化が進み、慣行・慣習に縛られ、誇れるものは何もなく、変革を望まないようにも思える。

定年退職を機に生涯学習論を学び、これまでの企業人からいち早く地域の人になることが大切と教えられる。活き活きできるものが欲しい。資金はないが人が集まって知恵を出しあえば、何かができる契機になるのではないか。地域プロデューサーとの出会いは、地域の変革を目指すには千載一遇である。活動目的を「地域の資源を活かし、地域の経済再生、地域文化の継承のモデルを作ろう」と決定した「しゃくなげ学校未来塾」にお世話になる。

### 2年間で 学んだこと

「百聞は一見に如かず」入塾式から約半年間は滋賀県各地の先進的活動グループを訪ね、実践例を見聞することで地域プロデューサーの一端を知ることができた。地域や社会を変えるものの見方や考え方を学び、しゃくなげ学校未来塾でのフィールドワークを通して、「温故知新」「脚下照顧」「人は皆師」の教訓を得ることになる。自分の住む地域には誇れるものが何もないと嘆いていたが、誇れるものはその価値観を見つけ、情報を発信し、世間の評価を受けて得られるもの、それぞれのモノの価値観とは何かを考える機会にもなった。

卒塾報告書の表紙タイトルは、～Yes we can!～「できる、だいじょうぶ、私たちにはできる。」でオバマ氏の演説のばかり。続いてケネディ大統領の演説「Ask not what your country can do for you, ask what you can do for your country（国が自分のために何をしてくれるかと訊くのではなく、自分が国のために何ができるのか自問しよう）。そして、日高塾長の「Think Globally, Act Locally」（グローバルな視点にたつて身近なことから行動しよう）をローカルに考えて、ローカルに行動することが大切だ、地域で徹底してやってこそ、その話がグローバルになるのだ）をばかります。考える力、表現する力、そして行動に移せる力を創造力と呼ぶならば、創造力を社会に活かせる技術を身につけたい。リーダーには自らの資質に加え過ちを遠慮なく指摘するような周りの環境が必要です。弱点には触れさせず強みばかりを誇示すればいずれ「裸の王様」になるのでは。塾活動で自己変革はあったかな。

### これからの 取り組み

入塾を機に急速にネットワークが広まり、協働活動が軌道に乗ってきました。しゃくなげ学校未来塾での実践を参考に進めてきた地元の山間湿原の生態系保全です。ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例に基づき、油日サギスゲ等生息・生育地保護区に指定され、奇しくも卒塾式に近い3月1日から施行されます。地域に根を張って、ミッションの軸がぶれることなくコミュニケーションと風通しの良い本物のグループ活動を実践して行こうと考えています。次は、地元油日城址の調査を目論んでいます。

# 7

かとう としお  
加藤 敏夫



## しゃくなげ学校未来塾グループ

### プロフィール

私は三重県四日市出身ですが、滋賀県に在住して20年を超えました。退職後も地域との交わりがありません。滋賀県のことがさっぱり分からない状態です。

近年は妻の仕事である心理カウンセリングの補足として、クライアントの家族と共にNPO法人グッドハートの活動を手伝っています。その他、農業を趣味としています。

これとは別のテーマで地域の人たちとの連携を図りたいという思いで、おうみ未来塾に参加させていただきました。

### 2年間で 学んだこと

後半の1年間は事情により、殆ど参加できませんでしたが、前半に滋賀県各地で活発に活躍しておられる地域活動を見学させていただき、大変勉強になりました。各地域活動リーダーの取り組みから学んだことは、「継続すれば道は開ける」ということでした。

テーマ設定が極めて重要なこと。

経済効果が無ければ、ボランティアでは継続は無理だということも実感しました。

### これからの 取り組み

おうみ未来塾で学んだ教訓を糧として、今まで培ってきた農業を主体にして「自給自足」の大切さを学んでいただける体験学習の場を作って行きたいと思っています。生きることの基本は「食料を確保すること」です。

職を失って食べて行けない人が急増しています。景気経済に頼っている社会の脆弱さを実感させられる今日です。

どのような社会変動に出遭っても、生きていくために、各家庭が食糧自給率100%めざして準備することが大切だと思います。

# 8

かなもり ひでお  
金森 秀生

ゆとり  
遊人里グループ



## プロフィール

会社人間だった40数年間、地域や、市民活動に感心を持つと言う事は考えもしておりませんでした。

今までお世話になりました方々へお返しできないかと未来塾に応募いたしました。

正直言って何も知らない私が採用されるとは思っていなかったのですが、入塾許可が参りました時には、少し戸惑いがありました。

しかし何がしたいのか何が私に出来るのか問うて見たかったのです。

## 2年間で 学んだこと

一年目の基礎実践コースでは県内各地を東奔西走して御活躍されている方々を拝見して、成功させる為には、継続と並大抵ではない努力が必要だな～と学ばせて戴きました。

しかし、自分にはそのエネルギーがあるだろうか？ 講義や県内各地を訪問し、見聞きする事は私の人生で初めての経験で感動ばかりで楽しいのですが、終わると、どうすればあのエネルギーが出せるのか、毎回心配で自問自答しておりました。

二年目の創造実践コースでは、地域の方々の喜び感動の楽しみがあるのを学ばせて頂きました。

私達が棲んでいる豊かな滋賀の自然に若いお母さんと子供たちが触れて、十分に満喫して欲しいとの思いで子育て支援の遊人里グループでの活動に踏み切りました。

グループの皆さんは非常にキャパの広い方ばかりで初心者私を特別扱いするのではなく、同じ目線での配慮もして頂きました。

活動を通じて、人と人とのつながりの大切さ、参加して下さった方々の喜びや感謝の言葉が、次のエネルギーになる事や、人と人との出会い、協力、ネットワーク、が私にとって、大きな収穫になりました。

この間事務局の皆様、9期生の皆様、その他色々お世話になりました方々に感謝、感謝。

心から御礼を申し上げます。有難うございました。

## これからの 取り組み

小さなことですが、昨年6月に地元草津で朗読教室を開設いたしました。

又、遊人里グループの活動も出来る限り続けたいと思っております。

“活動年齢は72歳ぐらいがピークですよ”と仰っておられたのをお聞きしたことが、ございます。それだけにマイペースで次の世代に引き継いで行きたいと思っております。

# 9

かばやし みゆき  
香林 美由起

ゆとり  
遊人里グループ



## プロフィール

子育てがひと段落したら何か始めたい！と考えていたとき、未来塾の話聞き「地域プロデュース」とは何だろう？学んでみたいと思い入塾しました。

県内で活躍されている各地域の方や、様々な団体の見学に行き、みんなきらきら輝いて、前向きに活動に取り組んでおられる姿を拝見して、見ている側も元気になりました。

## 2年間で 学んだこと

グループ分けの時に、子育てに関する事がしたいという思いの5人が集まり「遊人里グループ」ができました。 私達は「森の幼稚園」を目指して活動をしたわけですが、自然とふれあって子育てをしたいお母さん達がたくさん集まって、参加者と一緒に、主催者の私達も共に学び楽しむことが出来ました計6回の活動が終わった後の参加者アンケートに、「この会に参加するようになって、花や草に目を向けるようになった」とか「これからも、続けて行ってほしい」と言う様な言葉をもらい、この活動をしてよかったと思いました。

そして、活動をするのには、じっとしては出来ないことを痛感しました。

何度も何度も、下見に行ったり、ミーティングをして確認をして。それでも、当日バタバタする事があったり…そんな繰り返しで、成長するんだな~と思ったり。試行錯誤の一年でした。

活動途中で、家庭の事情で行けない時もありみんなに迷惑かけた事もありました。それでも、みんなが私の分もがんばってくれたので、やり遂げることができました。

一年の活動を通おして得たものは、やはり多くの人に出逢え、仲間が出来、自然がもっと好きになったことです。

## これからの 取り組み

地域プロデューサーには程遠いかもしれませんが、少しずつ欲張らずに取り組んでいけたらと思っています。

お世話になった事務局のみなさん、9期生のみなさん、メンバーのみんな、ありがとうございました。そして、これからも宜しくおねがいします。

# 10

かみかど ひろし  
神門 浩

## nukunukuグループ みんなの居場所 うちの縁側



### プロフィール

現在、生活協同組合コープしがで働いています。2007年4月頃おうみ未来塾を知り、そして「地域プロデューサー」という言葉を知りました。私の住む水口町田町（タマチ）では「祭」を中心に暮らしがあり、町内で執り行われる歳事の継承を誇りとして大切に育んできた地域です。就園前の子どもから小・中・高校・大学生そして親、年寄りまでみんなが祭りのお囃子を練習するようなところ。ここには地域の子育てがあり、年寄りの居場所があり、大切な伝統・文化を継承する風習があります。「これが地域をプロデュースすることかな」という思いと「これからもずっと続けなければ」という思いで未来塾に入りました。そんな訳で、現在水口町に住んでいます。1959年2月生まれの50歳です。夫婦共働きで市民活動のネットワークは妻の方が大きいですね。妻は子どもに関わる仕事をしており、私も大きな影響を受けています。

### 2年間で 学んだこと

1年目の基礎コースでは滋賀県内のNPOや市民活動をしておられるところにかがいお話を聞いて驚くことばかりでした。大切なことは、地域には人がいて、そこには資源があり、そしてそれを共有し共遊し共結うすることで新たなものが生まれることを実感しました。また「資源」は元からあるものや新たにできたもの、ずっと昔からあるものだけれど価値を再発見した新たな資源など、さまざまに点在していることを学びました。2年目の活動は、子どもからお年寄りまでみんなが気兼ねなく自由に集まれる場所、自分の住んでいる水口の田町のような、そんな場所をつくりたいという思いから「みんなの居場所nukunuku」をはじめました。しかし十分な活動ができず、中途半端な終わり方をしました。みんなの居場所ということから場所にこだわりすぎたのかもしれない。みんなの居場所は人と人のつながりが大切で、心と心のつながりから始まる事を忘れていたのかもしれない。軒先の日陰で立ち話をするお年よりやゲートボール場の休憩の場、公園の子育て中のお母さんの雑談の場、そんなことがスタートだと思えます。そこに人が集まって初めて、みんながゆったり、ほっこりできる場所をつくろう。こんなスタートからみんなの居場所ができるのかなとも思います。50歳を過ぎた私にとって、居場所はますます必要になるのかなということを感じています。こんなことを学びました。

### これからの 取り組み

もちろん私の住む甲賀市水口町をホームグラウンドに活動をすすめたいと思います。今住んでいるところの良さを子どもたちに実感してもらうこと、50歳を過ぎた親父たちの集まる場所、集まった親父たちが、地域を見直すこと、そこから資源を見つけ出し、みんなで共有し共遊し共結うできる活動を2009年から始めるつもりです。地域には親父のネットワークはあります。共遊できる場所（お酒を酌み交わす場）もあります。数え上げたらきりが無いほど資源はあります。例えば昔にぎわった商店街、うぐいすとこげらがいっぱいいる裏山、町をはやし、人をはやすお囃子は4月頃が最高潮で、曳山のダシづくりで子どもからお年寄りまでこの次期心がうきうきしています。旧東海道はリュックを背負った人たちでいっぱいになり、私の家の前をぞろぞろ歩いていきます。こんな資源を再発見して地域で大きな居場所を作ろうかなと考えています。幸い同じ年代の仲間は、地域に目を向け、地域づくりには惜しむことなく努力してくれる方がほとんどです。がんばります。

# 11

くほた なおこ  
久保田 直子



## しゃくなげ学校未来塾グループ 鎌掛を元気に

### プロフィール

愛知県生まれの大阪育ち。滋賀県大津市在住（13年目）。京都府の消費者センターに勤務し、府民のために悪質業者と格闘する日々をおくるママです。過去に、消費者と農家をつなぐ草の根活動のリーダーをしていましたが、米作りに通った高島市の山間部で高齢化・過疎化・獣害の現状を知りました。農業衰退・食料危機への不安がきっかけとなり、大学で（中山間地域の）地域政策・地域経済論を学びつつ、おうみ未来塾にもチャレンジ。残念ながら研究は途中で断念したものの、習得した知識やネットワークを今後、実践の場に生かしたいと思っています。この数年間、駆け足で過ごしてきたので、これからは、ゆったりペースで進みたいな～。フラメンコや週末農業にもトライしてみたい。

### 2年間で 学んだこと

1年目は、仲間を知る、先駆者の話を聴く、地域の取り組みを知る～など、多くのことを吸収して、自分の思いを形づくる期間。そして2年目のグループ編成はそれなりに悩んで決断するもの。私の場合、中山間地域が抱える課題をナントカしたい、との思いで入塾したのですが、ハードルが高すぎる上、残念ながら思いを共有できる方と出会えなかったことから断念し、興味の対象に近い「しゃくなげ学校未来塾」グループに所属することを選択しました。うちのグループは、毎週末に日野町鎌掛の「しゃくなげ学校」に集う、地域への密着度が高い活動。地道に重ねたヒアリングや地蔵盆、しゃくなげ学校の廊下の雑巾がけ・・・が強く印象に残っています。体調不良により思うように参加できず、仲間にご負担をおかけしましたが、地域の住民さんや仲間と共有したひとときは、お金を出しても買えない貴重なもの。今後の塾生の方々にお伝えしたいことは、枠を決めずに柔軟に考えればい～ということ。誰とどこで何を取り組んでも、得るものは大きいから。

### これからの 取り組み

昨年9月「雑穀の地産地消を考える会」を結成し、雑穀で消費者と生産者・農村をつなぐ活動を始めています。私のほか、食や農業に関心のある消費生活アドバイザーや未来塾の仲間が中心となり、消費者と生産者をうまく結ぶためのコーディネート役を担っています。ヘルシーで人気のある「雑穀」ですが、ニーズに反して国産は少ないのが現状。消費者と生産者の協働で、稀少作物である雑穀の地産地消を滋賀で進めることを通して、様々な可能性を探っていきたいと考えています。「雑穀」「地産地消」「消費者と生産者の連携」これらのキーワードに関心を持ち、入会下さった会員さんは約40名。消費者・生産者・行政・研究者・飲食店・・・立場もさまざまです。興味のある方はぜひご参加ください。なお、活動の詳細については「雑穀の地産地消を考える会」ブログをご覧ください。

# 12

こばやし りえ  
小林 理恵



## 近江むかし発見隊

### プロフィール

☆出身地 米原市(旧米原町)

☆NPO法人FIELD フィールド 副理事長

「子育て支援」をモットーに子どもたちのやる気を引き出すための活動支援を行っています。野外活動指導(キャンプなど)や、学校へ通いながら公共施設などで寝泊りする「通学合宿」を地元米原で実施中。また、米原市米原公民館を指定管理している団体でもあります。

☆学童保育指導員歴4年目

NPOでの活動を活かして地元米原市内の各小学校で子たちの居場所づくりを支援。

☆アマチュア劇団での役者歴10年

実は、長期間続けている趣味の活動。役者経験はもちろん、お芝居に関するネットワーク網は強いです。また、小学校のクラブ活動で子どもたちに演劇指導の経験も。

☆本業はデザイナー

自営業で、地域密着型のデザイン会社を経営しています。

チラシやポスター作成などのデザイン全般がお仕事です。紙面デザインは大得意です。

今回の表紙なども担当させていただきました。

### 2年間で 学んだこと

★フィールドワークの1年目

座学が苦手な私にとって、外に出て実践をしながら学べるのが、とても魅力的でした。以前から市民活動をしているので、わりと県内の活動団体さんとのつながりもありましたが、さらにその幅を広げることができて嬉しく思っています。

★なかなか決まらなかったグループ活動

スタートが他のグループより遅かったのですが、メンバーの人脈やフィールドワークでのつながりを活かして、彦根の地に入ることができました。今回、戦国武将の芝居を地元の方々の支援で作成し上演するまで出来ました。彦根の熱い「志」の地元の方と出見え、一緒にひとつのことをやり遂げた時の感動は心地よく、今でもやってよかったなあと思っております。



これからの  
取り組み

グループ活動でできた1つの脚本「道標」。私たちのグループが、他の地域で活動をする事になっても、この脚本を地元の人たちで演じ続けていってもらえれば嬉しいですね。

もちろん、この2年間でできたつながりは大切に！。今後、どんな形になるかはわかりませんが、近江むかし発見隊の活動を続け、消えつつある“語り継ぎたい歴史(民話)”を残していければ良いな~と思います。

# 13

すぎはら ひでき  
杉原 秀樹



## しゃくなげ学校未来塾グループ

### プロフィール

「1970年京都生まれ、92年京都精華大学美術学部テキスタイルデザイン科卒業。現代美術作品を制作している、作品についてはHPから (<http://sugihide.net>)。今年五月五日から、自宅のある「南郷」で何か出来ないか?と小さな企てを友人のアーティストと模索中、詳しくはこちら、「おうちでアート」(<http://ouchi-de-art.com>)。人と食べる事・飲む事が大好きです。」、以上が入塾時に提出した資料です。

今は、と言うと、ふとした事がきっかけで、NPO法人五環生活の会員になり、興味を持ち始めた里山や森林バイオマス関係で何か出来ないか?!と、またまた模索中。

### 2年間で 学んだこと

一言で、非常に濃密な時間を過ごせました。こんな機会を与えて下さった事にまずは感謝したいです。入塾しなければ出会えなかったグループ(超個性的な)メンバーの皆さんにも、もちろん感謝の意を、お世話になりました。

2008年の夏の数ヶ月、メンバーと一緒に回った鎌掛地区への聞き取り調査は、私自身フィールドワークが始めてだったので、本当に非常に良い経験になりました。都市部に住んでいては知る事も感じる事も出来なかったであろう事を、リアルに肌でできたと思っています。たった1年の期間でしたが「地域に入る」事や地域と共生する難しさを痛切に実感しました。お世話になった蒲生野考現倶楽部、NPO活動の様々な「生」な部分を垣間みれた事も勉強になりました。

とにもかくにも、何かが動いて行くというのは(ビジネスとか経済性とか言わないで、、、いやでも辛は大切だけど、正直)血の通った人間関係の構築が絶対に必要なのだな、と、今は強く感じています。

### これからの 取り組み

しゃくなげ学校、そして鎌掛地区、これからどんな風になって行くのか?自分なりの方法で見守って行きたいと考えています。

会員になった五環生活、去年(2008年)年末には、おうみ木質バイオマス研究会(OMBK)の皆さんと一緒に「びわこもり」という名前でワークショップを行いました。今後も何か面白い事を徐々に仕掛けて行けたら、と思っています。

# 14

たにぐち あつし  
谷口 敦史



## しゃくなげ学校未来塾グループ

### プロフィール

竜王町在住。  
足つぼマッサージのお店をしながら、健康教室や勉強会をしています。  
食や環境や心の事を含めた健康がテーマでやっています。  
昨年からは、畑で野菜作りを始めました。自然や農業にも興味あります。

### 2年間で 学んだこと

未来塾に入るまでは、市民活動や町づくりの活動にはほとんど関わった事がなかったのですが、自分が今までに知らなかった事を、数多く知ることができました。特に今、自分の住んでいる地域がどんな問題を抱えているのかという事や、先輩方がどんな取り組みをされているのかを知ることができたのは、すごく大きなことだと思います。

二年目の活動では、ほぼ毎週のように日野町に行き、たくさんの人に会えたのは楽しかったです。一軒一軒回ってのヒアリングは、本当にたくさんの意見を聞くことができたのですが、僕たちの様な地域の外の人が入って活動することの難しさも知ることができました。

この二年間で学んだことは、「楽しんで活動できているか？」と「本物体験」です。

楽しむ事は、継続していく事や人が集まってくるという事にも、大きく係わってくることと感じました。本物体験には、感動が生まれるということです。

### これからの 取り組み

具体的なことは、まだ決まっていますがこの二年間で得たことを活かし、活動をつづけていきたいです。

この二年間、本当にたくさんの経験ができ感謝です。  
関わって下さった方々、ありがとうございます。

# 15

なか お ふみ お  
中尾 文男

## 近江むかし発見隊

テーマ「地域の隠れた民話や歴史などを  
次の世代に伝承する」



### プロフィール

大津市日吉台に妻と二人の男の子と住んでいます。

現在、京都の東山学園で教員をしています。また、1997年頃から学び始めたコーチングやコミュニケーションのスキルをいかして、「感謝と志の育て」をモットーに、プロとして講師・個人コーチ・カウンセリングをしています。

未来塾には、卒業生がイキイキと活躍されているのを見て、「おもしろそう」×「地域に役立つ人になりたい」×「いろいろな人と知り合いたい」×「学びたい」という思いで応募しました。

### 2年間で 学んだこと

1年目は、9期生全員と一緒に活動できました。様々な分野のいろいろな立場の方々との出会いは、それだけで刺激的でした。仕事とかぶる日も多く、すべてに参加できた訳ではありませんが、有意義な学びの日々でした。中でも、現地へ出向いての体験・講義は印象に残っています。1年目の終わりの、グループ研究の「テーマ決め」、「グループ作り」は悩みました。先発のグループがどんどん前進。やりたいことがはっきりしている人たちが方向性を出していく中、置いていかれるような感じがしてずいぶん焦りました。意図がぶれている間は効果的な行動がとれないことを知りました。人生は選択と決断の連続なんですね。

2年目は近江むかし発見隊レッドとしての活動になりました。もちろん、思いがあってはじめてなのですが、地域も、具体的な方法も決まっていなかったところからのスタートでした。あつという間に5月になりました。幸い彦根の花しょうぶ通り商店街とご縁を結ぶことができ前進が始まりました。「地域の課題に取り組むには地域の人たちとのコミュニケーションが欠かせないこと」「自分たちの意図がぶれると相手次第に振り回されるし、逆に自分たちの意見に固執しすぎると柔軟性を欠き、地域の方々との協力体制がとれなくなる。その二つの間を取り、バランスよく前進する必要があること」「常にコミュニケーションをとり、共通の目標に向けてグループの一人一人が自分のできることを提供しあうこと」「滋賀県には、美しく豊かな自然と、奥深い歴史と文化、そしてたくさんの熱い人々がいること」「彦根・米原・近江八幡への愛着」等を学びました。すべての出会いに感謝致します。

### これからの 取り組み

一つは、近江むかし発見隊の今後をどうしていくか。すでに、4月以降の依頼が入ってきていますが、年度が切り替わるこの機会に隊員全員で今後の進む道を話し合いたいと考えます。それから、やはり私の地元、大津を中心にした活動を始めたいと考えています。「人育て」「環境」「食」「エネルギー」に興味をもっているのですが、まずは本業に近い「人育て」の分野でと考えています。本業の空き時間を使っての活動となるので「何をやって」「何をやらないか」を明確にする必要を感じています。共通の課題をお持ちのみなさん。どうか気軽に声をかけてください。

# 16

なかの てつや  
中野 哲也



## しゃくなげ学校未来塾グループ

### プロフィール

団塊の世代の一人です。2年前に約37年間の会社生活に終止符を打ったのを契機に、これからの人生で何ができるかを勉強する一つの機会として、おうみ未来塾に参加して、社会勉強してみようと思い参加しました。

### 2年間で 学んだこと

まず初めに、このような勉強の機会を与えて頂いた淡海ネットワークセンターの諸氏、又滋賀県内の各地で地域に根ざした活動を紹介頂いた方々、そして未来塾9期生の皆様、とりわけ「しゃくなげ学校未来塾」で一緒に活動頂いた皆さんと接する機会が得られましたことを感謝いたします。

この二年間で、それまでの37年間の会社生活では全く得られなかった貴重な経験をさせて頂きました。

地域の方々との交流の仕方、あるいは地元の方々の要望、希望をどう捕らえ、どのように具現化していくか、地道なそして根気よく進めていく活動の仕方、など地域に密着した活動を行っていくに際し、大変重要なことの一つとして、地に足をつけた活動の仕方の一旦を勉強できたことは大変うれしく思います。

又、グループ活動でメンバー全員の意思疎通を図り、丁寧に順番を追って、計画を練り上げ実行に移していく手法も大変勉強になりました。特に、損得勘定、上下関係などで関わる人間関係ではなく、各人の自由意志で参画するグループ活動では、お互いの意思疎通をしっかり図っておくことが如何に重要かをしっかり勉強させて頂きました。

### これからの 取り組み

この未来塾での経験をベースにH19年10月に結成しました近江八幡おやじ連のグループの一つ「元気おやじ一休さん」の代表として、地域を主体とする地域改善活動(例えば、地域の景観改善・保存活動、資源リサイクル活動など)に積極的に関与し、連携する地域活動グループとのジョイント活動を進めていきたいと考えております。

2年前、入塾の直前、四国88カ所歩き遍路で得られた貴重な思い出と価値観を胸に、おうみ未来塾活動をして参りましたが、今回、卒塾にあたり、もう一度四国88カ所歩き遍路をさせて頂き、新たな自分を発見できればと思います。三感『感謝、感動、感激』を胸に！

ありがとうございました。

# 17

はざま はやと  
迫間 勇人



## 近江むかし発見隊

### プロフィール

1982年1月18日神戸市舞子生まれ。幼少期は千葉県、青年期は大阪、京都で過ごし、いわゆる転勤族の家庭で育つ。2001年滋賀県立大学入学。滋賀県立大学の音楽サークルで湖東地域のお祭りへの出演やスタッフをしてきたことが現在地域活動に興味を持つきっかけとなる。その後湖東地域の中山道旧宿場町での活動を開始。学生チームC3 (Community Concierge Consultant) の設立に関わり、3年間代表を務める。2006年特定非営利活動法人五環生活の設立に関わり、エコツアーやワザ関連のプロジェクトリーダーを務める。同2006年滋賀県立大学大学院在学中におうみ未来塾に入塾。おうみ未来塾2年目に仲間とともに「近江むかし発見隊」を立ち上げる。

### 2年間で 学んだこと

1年目では滋賀県中を巡り、県内の様々な地域活動家の方々にお会いし、活動内容を知ることが出来た。県内の活動家の方々を知れたことは今後滋賀県で地域活動をしていく上で必要な人脈を作るうえで非常に有意義だった。また、現地見学を通して9期生の仲間たちと徐々に打ち解けていけたのもよかったと思う。2年目は有志の仲間とともに「近江むかし発見隊」を立ち上げ、たまたま私のフィールドである彦根で活動することになった。チーム内の雰囲気は大変よく、リーダーの中尾さんがうまく取りまとめてくれたおかげだと思う。そこからも学ぶことが多かった。また、今回は甲冑劇をすることとなったが台本製作からキャストの手配まで、劇を本格的にやるのは初めてなので、その進め方の一端を学ぶことが出来た。ここで大きな役割を果たしたのが小林さん。劇団経験とデザイン能力を最大限に発揮した。小林さんの仕事の速さと努力の姿勢にも学ぶところが多かったのではないかと思う。岩根さん、大橋さん、森さんからもこっそり学ぶことがあったが失礼ながら、今回は割愛させていただこうと思う。

### これからの 取り組み

これから彦根商工会議所に就職が決まり、今まで弱かった経営・商売という分野を学んでいきたいと思う。彦根商工会議所内でまちづくりの仕事もあるが、仕事以外にも現在取り組んでいる県内のワザを巡り紹介する活動や田んぼのツアー、また未来塾の人々との活動を続けていきたいと思う。

# 18

はらだ まさひこ  
原田 正彦

## nukunukuグループ みんなの居場所 うちの縁側



### プロフィール

滋賀県栗東市滝在住。滋賀県職員として土木関係の仕事をさせていただいています。また、県職員や市町職員の有志グループ「チョウチョの会」のインフォーマル活動など、県庁内外のネットワークを広げ、楽しく活動しています。

私の住む栗東駅周辺地域は、駅ができ、道路は整備され、店もできて便利になりましたが、私が子供の時に比べ近所のみなさんと顔を合わせる機会が減っているような気がします。地域で昔あった近所づきあいのような「横」の関係、世代間の交流のような「縦」の関係が無くなりつつあります。地域のみなさんが気軽に集まり、語り合える「場づくり」ができないかと思っていましたが、nukunukuの皆さんと出会い、「うちの縁側」というコンセプトに魅力を感じて参加させていただくことになりました。

### 2年間で 学んだこと

体調を崩すことがあり、肝心なグループ活動に充分取り組むことができず、私にとって悔いの残る活動でしたが、様々な貴重な経験をさせていただきました。

地元でのヒアリングでは、地域に住む人にとって、気楽に集まれる「みんなの居場所」は、必要だと思っても、そこに一人で参加するにはかなりのエネルギーが必要であることに気づきました。またうちの縁側の春祭りでのボランティアの皆さんの笑顔、訪れる方々の楽しそうな雰囲気には私自身元気をいただきました。

「場」を続けることにより、人が人を誘って自然に活動の範囲が広がるのではないかと思います。場を主催する側にとっても、場を続けていくことはエネルギーが必要で、そのためにも同じ志を持ったメンバーが緩やかなネットワークをつくり、お互いに相談したり情報交換することで支え合っていくことが大切だと思いました。

### これからの 取り組み

まずは自分の住む地元の集会所を拠点にして、近所の皆さんと一緒に「集まる」ことから始めてみようと思います。子どもやお年寄りの皆さんが楽しみに集まっていただける場、そして何より私自身が楽しく活動できる「場」を目指し、できる範囲で無理なくじっくり取り組もうと思います。

nukunukuの活動を通じて広がったネットワークの力もお借りしながら、ゆるやかでも着実な活動をしていきたいと思っています。「みんなの居場所」の皆さんとも交流を続け、お互い支え合って継続的に活動ができればと思っています。

未来塾での活動として充分できませんでしたが、これからがスタートだと思い、一からがんばっていきたいです。

# 19

はらだ ゆみ  
原田 優美

ゆとり  
遊人里グループ



## プロフィール

滋賀県大津市在住。

大津市内の幼稚園で子育てコーディネーターとして月に6回程度、子育て広場や預かり保育を担当しています。

未来塾に入塾する前は、市民活動経験なし。社会経験殆どなし。子ども2人を持つ専業主婦でした。子どもが少し大きくなりましたので、社会勉強が出来たらいいなという気軽な気持ちで入塾しましたが、入塾後の素敵な方々との出会いや市民活動グループ、NPO活動に参加協力することで、『私が出来るとは？何かしたい！！』という思いが強くなって深まっていきました。

## 2年間で 学んだこと

1年目の基礎実践コースでは、各地で活躍している先輩方の活動や講義、市民活動に必要なスキルを学ぶなどのフィールドワークを通して、市民活動の奥深さを知ることができました。私にとって毎回毎回がとても刺激的で新鮮。とても楽しかったです。

2年目の創造実践コースでは、同じテーマをもった遊人里グループの素晴らしい仲間と一緒に自然体験を通じた子育て支援『あまのじゃくくらぶ』を開催することができました。

私自身も子育て中ということもあり、子どもの行事で忙しく、思うように活動できないこともありましたが、仲間のフォローで素晴らしい活動を終えることができました。

遊人里グループの仲間は、常に魅力的でエネルギッシュ。仲間から学んだことは数多く、楽しくとても深いものでした。きっと遊人里グループでの経験は、私の人生をさらに豊かにしてくれると思います。こんなにも充実した気持ちで未来塾を終えることができ、遊人里グループの仲間、支えてくれた方々に感謝の思いでいっぱいです。

ありがとうございました。

## これからの 取り組み

来年度も活動を継続してほしいという参加者のたくさんの声や私自身のメンバーと一緒にもっと活動したいという強い思いもあり、来年も遊人里グループの活動を継続したいと考えています。素敵なメンバーにめぐりあうことができ、一緒に活動できたことは、私にとって大きな財産になりましたが、1年目の活動では、地域プロデューサーに求められているコンセンサス能力、ネットワーク形成力、マネジメント能力は、地域に十分に発揮できていないのではと思っています。これらの課題解決のために、2年目も同じフィールドで、1年目では見つけられなかった地域の魅力や人と人とのつながりを深めて活動したいと思います。

ゆっくり楽しく活動をつづけていきますので、皆さま、よろしくお願ひします。

# 20

みなみで ますゆき  
南出 益行

nukunukuグループ

みんなの居場所「うちの縁側」  
拠点づくりとネットワーク化をめざして



## プロフィール

守山市生まれ。コンピュータ会社、電気関係の仕事と職を変え、現在福祉関係の仕事に就く。介護福祉士を経て、介護支援専門員として修行中。

これからの超高齢社会に向け、高齢者やその取り巻く環境において、現在地域に対して何が求められているのか、これからどんなことをする必要があるのか、どんなことをすればいつまでも住みやすい余生を送れるのか等のヒントが得られればと思い、参加した。

## 2年間で

### 学んだこと

結局は、本人次第であること。

当たり前のことですが、人はいくら周りから“これがいいですよ”と勧められても、自分が納得できなければ、参加しないと思います。またその紹介された人を信頼していれば一緒に参加するでしょう。

2年目の活動を通して、その勧誘役だったと感じました。その信頼される人には、なれませんでした。そんなすぐにはムリですが。

だから、人と人のつながりがあれば、“みんなの居場所「うちの縁側」”が、あちこちにできていくんだと思いました。ただ、たくさんの人たちが集まったりしようとすると、その環境作りには大変な努力が必要だと感じました。

nukunukuのメンバー、9期生の仲間、また活動に協力して下さった7期生の土田さん、藤田さん等、多くの方々との出会いとつながりに感謝しています。

## 今後の課題

あっと言う間の二年間でしたが、仕事の環境が変わったことで、当塾への活動の比重が減ってしまい、仕事に慣れ、会社に慣れるのに、二年目は時間を割かざるを得ませんでした。

本当に中途半端になり、nukunukuのメンバーには迷惑をかけてしまいました。

なかなかおうみ未来塾のような環境に接したことがなく、あまり同期生と交流を深めることができず、残念でした。

そんな反省もこれからの生かすため、しっかりアンテナを張って、参加できそうならこれからも皆さんの活動等に参加していきたいと思います。短い期間でしたが、皆さん、ありがとうございました。

# 21

みなみむら たずえ  
南村 多津恵  
ゆとり  
遊人里グループ

自然体験を通じた子育て支援事業  
あまのじゃくくらぶ



## プロフィール

学生時代に環境ボランティアを始め、環境学習やキャンペーン、広報等に取り組む。

環境NPO（NPO法人 環境市民）職員、学童保育指導員（高槻市）を経て、滋賀県環境学習支援センターに環境学習推進員として勤務。

生まれ育った大阪から大津市の瀬田駅近くに越してきてまもなく3年。

趣味：お菓子作り、魚をさばくこと、庭いじり、文章を書くこと、市民活動

特技：楽貧生活（スローライフ）、ごみ減らし、

ごちゃごちゃ状態のものを整理すること（自分の部屋を除く）

関心事：環境、自然、教育、こころとからだ、演劇、食と農、まちづくり

好きなもの：おいしいもの 嫌いなもの：おいしくないもの

最近の取組：あまのじゃくくらぶ、輪の国びわ湖、環境市民エコ投票 など

## 2年間で 学んだこと

環境学習畑を歩いてきて、親子で参加できる場をつくりたいということは、もう何年も前からずっと思っていたことでした。それが滋賀に来て、自然について勉強し、幼児の環境学習を学び、遊人里グループのメンバーと出会って「子育て支援」という視点を得、ようやく結実しました。子育て関係者の皆さんのゆる～い“ええ感じ”の雰囲気にはオドロキ。環境学習分野には決してできなかったと思います。

しかし、地域プロデュースってなんだろう、地域に入るってどうやるんだろう。そんなことが学びたくて入塾したのに、とにかくやりとげるのに必死で、結局よくわかりませんでした。それでも、試行錯誤の中で最後の最後になってほんやりと何かが見えてきたとは思っています。地域の資源を発掘し、スポットライトを当て、つないで、盛り上げて、地域の人々が自発的にパワーアップするお手伝いをする。それが地域プロデューサーの仕事だとすれば、まだまだまだまだ道のりは遠いということはわかりました。それがわかるようになったことが二年間の進歩です。とにかく、続けなきゃ！（他にも、たとえば六ヶ所村の核燃料サイクルや沖縄の米軍基地問題も、地域プロデュースができれば、いい方向に持っていけるんじゃないのかなァという想いをもちつつ）。

## これからの 取り組み

「アル中で家族に迷惑をかけたとんでもない人間」と母から聞かされていた祖父が、実は地域プロデューサーであったことを、昨年はじめて大叔母から知らされました。そういえば、私が何か筋の通らない社会の問題に怒るたびに、母は、それは祖父の血だねと言っていたような。なあんだ、血筋だったんだ。じゃあ、社会における納得できないことに、後先忘れてつい突っ走ってしまうバカなのはしょうがないネ。だから、これからどこに行くのか自分でもわかりません。でも、めざしているのはいつだって「持続可能な社会」＝「将来に渡りみんなが笑顔でいられる社会」です。自分にとっての地域で、その実現のためにその時できることを一步一步こなしていくつもりです。

# 22

むかい くぼ めぐみ  
向久保 恵美

ゆとり  
遊人里グループ  
あまのじゃくくらぶ



## プロフィール

湖南省水戸町在住。滋賀県に住んで12年になります。湖南省女性センターで未就園児を対象にした一時預かりの保育サービスをしています。水戸町は工場が多く、他県から来られた方が多いので、お母さん同士の助け合いで安心して楽しく豊かな気持ちで子育てができるようにと頑張っています。在塾中に保育士の資格を取得し、湖南省内の親子広場や、発達支援教室のスタッフとしての活動もしています。

とにかく明るく元気に前向きなO型です。2年前にショートヘアだった私ですが、すっかり長くなりました。

## 2年間で 学んだこと

入塾当初、「皆さんすごい！」と思い、「私みたいな普通の人に来ていいの？」とショックを受けたことを思い出します。元々、保育サービスのグループの運営について企画力などを高めるために、また、滋賀県のことをもっと知りたいと思い入塾しました。

各地を歩いて回るフィールドワークは本当に楽しくていつも遠足気分でしたし、たくさんの輝いている方たちと出会えたのが印象的でした。遊人里グループとして活動した2年間は不安なスタートでしたが、「自然体験を通じた子育て支援」としてあまのじゃくくらぶを立ち上げ、グループのみんなと話し合い、企画し実行できたことは大きな自信となりました。特に参加する側の立場で丁寧に下見を重ねたこと、プランニングシートや各回の振り返りなどが勉強になりました。自然体験の少ない私自身が参加者と共に自然と人のつながりや、いのちの循環について学べる素敵な場でした。

遊人里グループの皆さん、頼りない私でしたが本当にありがとう。同じ9期生の皆さん、またいつでも「こんな楽しいことがあるよ」とお誘い下さいね。事務局の方々、ありがとうございました。

## これからの 取り組み

今後も「センス・オブ・ワンダー」や「生きる力」を育む子育て支援をしていきたい。押しつけではなく、自然と植物や生き物と関わる中で…。そうすると「環境」「教育」「子育て」って別々のものではなく、全部つながっていることに気づくのではないかな。支援者としてのスキルアップに励みます！そして「地域を巻き込む仕掛けづくり」を考えていきます！

# 23

もり  
森

としかず  
俊一



## 近江むかし発見隊

### プロフィール

滋賀県大津市に生まれ中学卒業まで、高校は草津市に転居して大津の高校まで通っていました。登校拒否など感じたこともなく3年間クラブのために通っていました。そのクラブは、今もマスターズとしてぼちぼち続けています。

民間会社へ就職して5回転職して今の公務員に落ち着いて30年。子どもが保育園卒園する年に役員が当たり、今までの園に、そして何度も役員をしていた妻へのお礼に私が役員をすることに。それからは保育園、小学校、中学校、高校のPTAを17年。

地域の活性化を託され「レッツ南町」を立ち上げましたが運営に悩んでいる時に「未来塾」を知り、地域プロデューサーの勉強、体験をすれば・・・地域も私も活性化が！

### 2年間で 学んだこと

1年目は何を学んだのかといえば・・・、学というより準備運動、2年目に向かったのトレーニング「アップ」でしょうか。2年目の活動は何を目的にするのか、自分の進む道は、取り組みたいことは何かを自分に問う1年だったと思います。

さあ～本番の2年目は・・・、目的が絞れても方法の定まらない6名が集まり、六人六色の個性と強みを発揮して牛歩ながら活動、前進を！

5月からやっと地域との調整ができ「彦根市、花しょうぶ通り商店街」に決まり、週1回の理事会に同席させて頂いて調整。11月23日「佐和山城」麓の公園で、甲冑劇を通して地元の歴史「石田三成」「井伊直弼」を表現しました。2月7日、3月22日も発表し、全国のマニア向け、地域の子どもを含めた市民、観光客、対象を変えて発表しました。

地域との連携、調整などを手探りで取り組んできましたが、商店街の理事さん、発見隊の仲間に助け、教えられ、一回でも多く話し合っ一緒に活動すること、汗を流すことで理解し合える、することが一番大切と感じました。

### これからの 取り組み

4月以降も彦根市内での発表を依頼されている状態です。私たちの活動が求められるまでに至ったことは嬉しいことです。しかし、私たちは「劇団員」かという悩みも出てきました。

一定の成果が出て軌道に乗れば、後継者の育成が課題です。次の1年はこのことに向かったの活動かなと考えています。

甲冑劇の発表と並行して、地元の「佐和山小学校」で地域の歴史「佐和山城」「石田三成」について地域の人々と伝承活動をしていければ最高と、打診、調整をしています。

さらに、草津市の小学校、学区にも伝承する、しなければいけない「人物」「歴史」があります。それを「老人会」「PTA」地域の団体と共に協力して伝承できたらと夢、目的が定まりました。未来塾で目的を定め、向かう道を確認できたことに合唱。m(\_)\_m

# 24

やまぐち ひさよし  
山口 尚孝



## しゃくなげ学校未来塾グループ テーマ 「鎌掛を元気に」

### プロフィール

#### おうみ未来塾への入塾動機

草津市在住ですが地域の事は殆ど知らず、会社人間で過して来た45年間、退職後特に何をするなどは考えず、唯がむしゃらに働いて来ました。自然と関わる何かをしたいと考え、在職中から時間があればガーデニングや家庭菜園をやっていました。退職してシニアの生きがいを探そう、新しい仲間が欲しいと思っていた折、自然環境について栗東自然の森の解説リーダー養成講座の募集と、おうみ未来塾の募集がありました、共に申請し通りました。どちらも年齢・性別・学歴は問わず、若い人たちや同じシニアの方々と同じ目線で学ぶ事ができる事が最大の動機でした。

#### 2年間で振り返り

### 2年間で 学んだこと

1年目の講義は、県内の活動が盛んな地域を訪れ、いろんな事業を見学し又参加する事などで次の目標探しが見えてきました。2年目はその目標を決める「4グループ」分けが中々決まらず自分も迷いましたが、自然が多くあり石楠花で有名な、日野町・鎌掛地域に入るグループに参加しました。鎌掛には既に活動されているNPO法人があり、その一部を手伝うという形で、グループ名「しゃくなげ学校」が10名でスタートしました。フィールドにした鎌掛は7年前に廃校になった木造の小学校が在り、又商人町の歴史が残る260数軒が、南北に伸びる御代参街道を挟んで6区に分かれた集落でした、その集落の区会、上部の運営委員会の集会にも参加させて貰い、地域に入らせて貰う趣旨を説明しました。又グループを広く知って貰う為に、瓦版を作る事を提案「しゃくなげ学校瓦版」と題しA4判で発行して、活動予定や、活動報告などを順次発行してゆきました。初版は地域にはいる為の、聞き取り調査のやり方、グループ紹介版、以後地蔵盆版、古民具や箱膳食事体験ツアー版など計7版を出し配布しました。

1年を鎌掛の皆さんといろんな行事を通して接してきましたが、これで本当に地域に入れたかは分かりません。馴染めたのはお年寄りや子供達と役員の方々と、これからの鎌掛を動かす若い層の方々との交流が出来ず、今後この事が課題と感じました。又「地産地消」で農産物の利用と観光をエコツーリズムに繋げていける地域だと思えます。

### これからの 取り組み

これから、地域プロデューサーで地域を活性化するという事は、じっくり時間をかけ地域に溶け込まないと、簡単な事ではないと実感しました。又自分が主題に思っていた里山体験や多くの自然に接する事もやってみたい。今後、「しゃくなげ学校未来塾」グループは、鎌掛地域とどの様な関わりを持てるかは分かりませんが、2年間で共に学んだ仲間と真剣に取り組んだ、地域をプロデュースするという課題を少しはクリア出来た事や、多くの方々との出会い、又楽しかった事等は、自分のこれからの歩みにプラスになると思えます。

最後にお世話になった関係者の皆さま有り難う御座いました。

# 25

よしだ えいいちろう  
吉田 英一郎



## しゃくなげ学校未来塾グループ テーマ 「鎌掛を元気に」

### プロフィール

野洲市篠原駅前地区在住。私は30数年企業で、製造と生産管理業務に従事して、早期定年退職を選択して、かねてより興味を持っていた、技能で調理師と古民家（リフォーム）に関連した、知識を取得しました。

### 2年間で 学んだこと

私は1年目の「基礎実践コース」で、滋賀県を東西南北で活動されている体験談及び継続されている状況を、講義と体験談で大変力強く感じ取りました。

特に、「継続は力なり」と感じ、10周年記念講演横石さんの「葉っぱビジネス」では「地域社会の意識変革へ」が大いに参考に成りました。

2年目は、「しゃくなげ学校未来塾グループ」ではNPO法人蒲生野孝現倶楽部と日野町鎌掛地域住民と一体となった活動になれるよう、「地域の資源を活かし、地域の経済・文化の継承モデル」を深く考えることで、「住民からの危機意識」が出て来ないと、非常時と考えられないと、変化を求める時期にいたっていないと思いました。

### これからの 取り組み

私は「おうみ未来塾」へ入塾前より考えてた、地元「地域社会の活性化へ向け」退職者を主体にシニア世代の参画を呼びかけ、グループを結成し、ITとNPO法等の勉強会から始めて、NPO活動を継続して「地域から必要とされるシニア世代」になるよう、「天の利、地の利、人の利」を熟慮すると、今年がスタートする最も良い時期と考え「私の知人から」声を掛けて、準備を始めました。

私は2年間で経験した「地域プロデューサー」として、現在住む「地域社会へ貢献する」ことへ意欲を持って、行動範囲を広げ、活動が継続出来るよう、取り組みたいと考えています。

2年間お世話になり、「ありがとう御座いました。」

4

スタッフからの  
メッセージ

YES,  
WE  
CAN,  
miraijyuku

## 未来にきっとサクラ咲く！

元おうみ未来塾担当スタッフ

林 章



おうみ未来塾第9期生のみなさんご卒業おめでとうございます。そして、2年間の塾活動、大変お疲れさまでした。

皆さんの活動成果を成果発表会で聴かせていただきました。期待通りに、或いはそれ以上にできたというグループも、思いどおりに行かなかったというグループもあったと思います。ですが私は、全てのメンバーが、それぞれに素晴らしい学びをされたものと思っています。

おうみ未来塾での学びの成果は、塾活動自体の成否だけで測ることはできません。皆さんが未来塾で学ぼうと決意された2年前の思いは、どのくらい達成されたでしょう。2年前の自分とどれだけ変わり、何に気づき、どれだけの苦労や悩みを重ね、どんな資源を得られたでしょう。言葉では表しきれないことも沢山あると思いますが、自分のどこかに何か刻み込まれたという確かな感覚があるのではないのでしょうか。

さて、また桜の季節がそこまできています。これから皆さんが、自分のフィールドに戻り、或いは未来塾のグループ活動を基に、それぞれに活動を進めていかれる門出にあたり、滋賀の有名な桜の一つ、海津大崎（高島市マキノ町）の桜並木にまつわるエピソードを紹介します。

この海津大崎の桜並木は、昭和6年頃、当時道路補修の作業員だった宗戸清七さん（故人）が、愛着のある道に何か残したいと自費で購入した苗木をまったくの自力で桜を植えたことがはじまりで、宗戸さんが植え始めて3年、若木が花をつけはじめると、村の青年団も協力しはじめ、その後、昭和11年に海津村（現：高島市）が植樹したものだそうです。70余年も前の地道な市民活動が、現在の私たちに多大な豊かさをもたらしてくれています。

市民活動は、すぐには成果の見えない地道な活動がほとんどです。それでも、皆さんが、未来塾で得たものを糧に、それぞれのフィールドで地道に活動続ける、（必要な時には小休止をしながらでも良いと思います。）そのこと自体が、未来へのサクラの苗木となっているはずで、いつかサクラ咲く日が訪れることを信じながら一歩ずつ歩いていかれることを、一人の市民として応援していきたいと思っています。

## 「融合」はつづく、これからも！

元おうみ未来塾担当スタッフ

高峯 陽子



9期生の皆様、ご卒業おめでとうございます！私は第8期の事務局を担当させていただき、9期生の皆様とは、1年目の講義のお手伝い等で一緒にさせていただきました。私が9期生の皆様について最も印象深いのは、塾生会でのにぎやかな意見交換や、8期生の発表会での活発な質疑応答でした。8期生の皆様が比較的控えめな方が多かったように思いますので、その活発さ、勢いを新鮮に感じたのを覚えています。また、9期生の皆様の中には入塾前から地域で活躍されている方、「この方はすでに地域プロデューサーなのでは？」と思うような方もおられて、「一体、おうみ未来塾に何を求めて入塾されたのだろうか？」と考えたこともありました。

けれど先日の成果発表会を拝見して、それがわかったような気がしました。それは、自身の持たれている資質と、仲間や地域が持つ資源との「融合」でした。おうみ未来塾という場を上手に生かして、自身の資質を高めたり、仲間や地域とのネットワークを深められた姿がそこにはありました。おうみ未来塾の新しい可能性のようなものを感じました。

私は現在、「まちなか交流館ゆうゆうかん」という天津市の施設にて、指定管理NPOのスタッフとして勤めています。おうみ未来塾の事務局として、塾生の皆様と一緒に悩み、感じ、学んできたことを実践しているつもりです。なかなかスマートに、うまくいくものではありませんが、それもまた未来塾で学んできたことです。9期生のグループや塾生の何名かの方には、この1年の間にも何かとお世話になり、ご縁があったことはありがたいことだと思います。またこれからも、きっとご縁があることと思いますので、お会いできるのを楽しみにしています。どうぞよろしく申し上げます！

## 大切にしたい人生の貴重な2年間

淡海ネットワークセンタースタッフ  
(未来塾1期生) 遠藤 恵子



9期生の皆さん卒業おめでとうございます。

これまで何回か卒業式を見てきましたが、そのたびに卒業というより、皆さんの旅立ちの感を強く思います。

現在、おうみNPO活動基金で県内各地を訪問していると、地域で活動している多くの方々が、この滋賀の地がほんとうに好きで「何とかしたい」という思いで活動を始められています。9期生の皆さんも2年間の塾活動期間に、地域へ入れ「その思い」への気づきを持たれたのではないのでしょうか。

今後、皆さんも地域プロデューサーとして、住みやすい滋賀の地をつくっていただけるよう願っています。

9期生の仲間と出会い、過ごしたこの2年間は、今後の人生にとっても貴重な2年間だったと思います。私自身も一期生として卒業して8年、いまだに会う仲間は、大人になってからの友人として貴重な存在です。

また、9期生は、未来塾が始まって10年目となり、1期から10期の塾生が一堂に集まる大交流会にも参加していただいたので、未来塾10年の厚みを感じられたことと思います。9期生という同期の輪と未来塾卒業生という大きな輪の両方を活かして、今後のご活躍を祈っています。

## 豊かな仲間の森

淡海ネットワークセンタースタッフ  
坂下 靖子



未来塾9期生のみなさん、卒業おめでとうございます。そして2年間の塾活動、お疲れ様でした。

私は2年目のグループ活動に関わらせていただきました。その中で印象的だったのは、みなさんが互いに「地域プロデューサー」とは？と何度も問いかけておられたことです。私の中でも同じ問いが投げかけられていた1年間でした。

グループ活動では、仲間と活動のテーマや目的を理解し合い、共有して、支えあって、活動を進めてこられたと思います。時には意見の違いに、難しさを感じることもあったかもしれません。でも、そんな異なる視点や意見が、活動をより深め、広げるために必要なのだと感じてこられたと思います。一人ではできないようなことも、それぞれが持っている特技を活かすことで可能になったり、一人では気付かないことも、仲間の異なる視点で気付くことができたり。仲間の幅広さが活動の幅広さにつながっていったのではと思います。

「地域プロデューサー」とは、仲間の一人ひとりの存在の大きさを知り、さまざまな特技や違う視点を持った仲間を活動に巻き込み、その一人ひとりの力を信じて十分に発揮できる場を作っていく。そんな人なのだろうと、みなさんの活動を見て感じました。

豊かな森には、たくさんの種類の生物が生きています。そして、多くの種類の生物が生きる多様な生態系は、長い時間をかけて作られ、長い歴史を刻んでいきます。地域で、多様な仲間を増やしながらか活動を進めていくことは、豊かな仲間の森を作っていくようなものかもしれませんね。

みなさんが、あちこちで豊かな仲間の森を作っていくことをお祈りしています。

# 4 + 3

## 編集後記



編集長  
**神門 浩**

日程調整しかしていない編集長でしたが、みなさまのご協力でなんとか報告書ができました。ほんとうにありがとうございました。

編集委員  
**小林理恵**

自分のスキルを活かして、表紙と中表紙をデザインさせていただきました。みんなと一緒に、良い記念冊子が作れたのではないかと思います。素晴らしい仲間と作業できて嬉しかったです★

編集委員  
**原田優美**

9期生の得意技を結集して完成した卒業報告書。一人ではできないことが力を合わせればできると実感しました。皆様に心から感謝します。ありがとうございました。

編集委員  
**久保田直子**

「2年間の歩み」のレイアウトを担当。写真で2年間を振り返り、感動とともに反省（体重？キロ増）しました。編集作業に参加できて楽しかったです。有難うございました。

編集協力  
**杉原秀樹**

二年間本当に早かったなど、各グループの原稿や個人ページを見てつくづく感じました。二年間の経験を糧に、塾生仲間がどんなふうにはなりたいのか？興味津々です。編集委員の皆さん、本当にご苦労様でした。

編集協力  
**金森秀生**

編集に参加してすごい能力を持った方々が塾生の中にいらっしゃる事を発見。素晴らしい出来上がりの報告書に感謝、感動。皆様ありがとう。

編集協力  
**吉田英一郎**

私は感服しました、9期生には芸術・文化及び芸達者に優れた方が多く、楽しく2年間を過ごせた事。大変ありがとうございました。御座いました。

「YES、WE CAN」

おうみ未来塾第9期生卒塾報告書

発行年月：2009年5月

企画・編集：おうみ未来塾9期生

発行元：淡海ネットワークセンター（財団法人淡海文化振興財団）

〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20 ピアザ淡海2F

TEL：077-524-8440 / FAX：077-524-8442



遊人里グループ



nukunuku



近江むかし発見隊



しゃくなげ学校  
未来塾グループ

miraikyaku9